

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

～ も く じ ～

	(頁)
1 令和元年度事業計画重点事項に関する総括	・ ・ ・ 1～
2 法人運営に関する事業	・ ・ ・ 5～
3 “ともにいきるまち宗像” 推進事業の充実	・ ・ ・ 7～
4 広報公聴活動の推進	・ ・ ・ 19
5 高齢者福祉事業の推進	・ ・ ・ 20～
6 障がい児者福祉事業の推進	・ ・ ・ 25～
7 低所得者福祉事業の推進	・ ・ ・ 27
8 子育て子育て・母子寡婦福祉支援事業の推進	・ ・ ・ 28
9 福祉教育の推進	・ ・ ・ 29～
10 活動財源の確保	・ ・ ・ 34
11 ボランティア活動・市民活動の促進	・ ・ ・ 35～
12 赤い羽根共同募金運動への協力	・ ・ ・ 40
13 障害者生活支援センター運営事業	・ ・ ・ 40～
14 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業	・ ・ ・ 45～
15 介護保険事業の適切な運営	・ ・ ・ 47～
16 指定障害サービス事業の適切な運営	・ ・ ・ 48
17 市受託事業の適切な運営	・ ・ ・ 48～
18 スマイルハート事業	・ ・ ・ 49
19 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業	・ ・ ・ 49～
■事業報告書資料集	・ ・ ・ 53～
○社会福祉協議会及び宗像市社会福祉協議会の概況	
○用語の説明	

1 令和元年度事業計画重点項目に関する総括

本会は、事業計画に掲げた基本方針を踏まえ、地域福祉の推進役としての役割を果たすべく、宗像市をはじめ地域の様々な関係機関・団体との連携・協働のもと、地域福祉事業に取り組みました。また、地域住民の安心できる生活の維持を中心に見据え、時代に淘汰されない継続可能で安定的な経営体制の構築に向けた取り組みを進めてきました。

令和元年度の実施状況は、以下のとおりです。

（１）第４次地域福祉活動計画に基づく本会経営・事業の実施（計画年度：H27～R6 年度）

第４次地域福祉活動計画に定めた平成31年度事業の遂行に努めます。また今年度は、この計画の中間年度であるため、この計画の進捗状況の分析・評価、必要に応じて見直し等を行います。

【実施状況】

第４次地域福祉活動計画（平成27年度～令和6年度）及び第３次福祉教育推進計画（平成29年度～令和3年度）の両計画に掲げた令和元年度事業の遂行に努めるとともに、時代の変化に伴う新たな行政施策の動きにも対応し、地域と密につながっている本会の特性を生かした取り組みを進めました。引き続き、今年度中に第４次地域福祉活動計画の進捗状況の分析・評価を行い、計画内容の見直しを行います。

（２）第３次福祉教育推進計画に基づく「社会的包摂による生涯学習としての福祉教育」事業の実施（計画年度：H29～R3 年度）

第３次福祉教育推進計画に基づき、平成31年度事業の遂行に努めます。

【実施状況】

第３次福祉教育推進計画に基づき、指定した28の福祉教育推進校（園）で、福祉全般の講義及び体験学習を実施しました。

（３）社会福祉法人制度改革に基づく公益的な取り組みの推進

本会は、「宗像市社会福祉法人連絡会」の会員及び事務局として、社会福祉法人相互で情報交換を行うことにより、地域のニーズや福祉課題を受け止め、社会福祉法人等の連携・協働し、地域における公益的活動に取り組むことで、住みやすく安心して暮らせる地域づくりの推進に努めます。

【実施状況】

本会は、市内に施設を置く25の社会福祉法人が連携・協働する場である「宗像市社会福祉法人連絡会（平成30年11月発足）」の会員及び事務局を担っており、連絡会の会員が一体となって地域における公益的活動として、令和元年度は地域活動時の移送支援など地域活動の活性化につながる支援に取り組みました。

（４）地域の福祉課題を解決するための「ともにいきるまち宗像」推進事業の充実

■今年度は、生活支援体制整備事業を市から受託し、社会福祉協議会の基本理念である住民主体の原則に基づき、従来から取り組んできた地域福祉活動や地域組織化活動を活かしながら、更なる地域福祉の充実に努めます。そして、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心に、国が進める地域共生社会の実現に向けた地域づくり、資源開発、並びにネットワーク化に積極的に取り組むことにより、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取り組みを推進します。また、地域住民と専門職、福祉団体、関連事業所等がいっしょになって地域の支え合いを発展させ、地域づくりを推進する協議体（地域支え合い会議）の設置及び運営を任じます。これらの事業を推進していくために、本会各部門との連携・協力体制の強化に努めます。

■認知症施策推進事業では、市から任命された認知症地域支援推進員を中心に、サポーター養成とオレンジ（認知症）カフェの展開等を進め、認知症にやさしいまちづくりに積極的に取り組みます。また、本人主体の視点に立ち、認知症の人同士の繋がりを築いて、本人の声をもとに地域の様々な人がいっしょに考え、活かしていけるような取り組みについて検討します。

■排除や孤立、孤独からすべての人たちが援護され支えあえる地域づくりをすすめるとともに、子どもから大人までそれぞれのライフステージに応じて、認知症の人、知的・精神・発達障がいがある人などやその家族への理解と支援を進めるため、福祉教育を積極的に推進します。

■「第 4 次計画」に基づき、より充実した小地域ネットワーク活動を推進するため、福祉会並びに地区福祉会連絡協議会などと連携・協働して、支え合いマップづくり事業の活動を推進します。

【実施状況】

■「地域包括ケアシステム」構築の具体的な取り組みとして、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を 6 中学校圏域に配置し、地域の生活課題・福祉ニーズの把握をはじめ、支える側に立つ地域資源の把握と開発、それらをつなぐネットワークづくりを進め、地域の生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に努めました。さらに、これらを実行・推進していくため、地域住民と専門職、福祉団体、関連事業所等が参集する「協議体（地域支え合い会議）」が大島地区を除く 11 コミュニティに設置されました。地域支え合い推進員は、地域の活性化が図られるように活発な活動による運営支援を行いました。

■認知症施策推進事業では、平成 25 年度から受託している認知症サポーター（以下、サポーター）の養成事業に加え、平成 29 年度よりサポーターの活動支援事業へと拡大し、オレンジカフェの開催やサポーターが活躍できる環境づくりを推進し、認知症にやさしいまちづくりに向けて取り組みました。令和元年には、認知症本人とその家族が主体となって運営するおしゃべりひろば（毎月 1 回）の開催につながりました。

■子どもから大人・高齢者まで、障がいや認知症等があっても排除や孤立することなく、理解と支え合いが得られる地域づくりを目指して、福祉教育や啓発事業を多様な形で展開しました。（主な取り組み）

○福祉会、民生委員児童委員、シニアクラブ等と連携とした「見守り体制づくり～支え合いマップづくり」

○「いきいきふれあいサロン」による介護予防事業

○認知症施策推進事業の受託事業である「認知症サポーター養成講座」及び「オレンジカフェ」の開催

○在宅生活を支えるための支援体制づくりを、地域課題に関わる多様な主体（地域資源）を繋いで推進する「生活支援体制整備事業」の受託

（５）高齢者及び障がいのある人への権利擁護事業の充実～法人後見業務への体制整備

■成年後見制度やライフサポート事業、高齢者や障がいがある人への虐待防止事業などを包括的に行う「権利擁護センター（仮称）」の設置については、引き続き、宗像市と連携・協働して検討を進めます。

■成年後見制度の後見業務を行う「法人後見事業」については、後見業務の受任に向けた取り組みを進めるとともに、市民後見人の登録を促進します。

【実施状況】

■成年後見制度や社協独自のサービスであるライフサポート事業、令和元年 10 月から受託している福岡県日常生活自立支援事業など、権利擁護事業を必要とする人の増加に伴い、運営体制の充実を図りました。成年後見制度の利用促進や健全で効果的な事業運営を確保するための中核機関となる「権利擁護センター」の設置については、引き続き、市とともに検討を進めます。

■障がい者等の権利擁護支援の充実を図るため、本会が法人として後見業務を担う「法人後見」業務の体制整備を行いました。ライフサポート事業の利用者で要件等を満たす場合は、引き続き社協で権利擁護支援を行うことができるようになっていますが、該当する利用者はいませんでした。

（６）障害者生活支援センター及び障害者虐待防止センター事業の充実

■市から受託している障害者生活支援センターや障害者虐待防止センターでは、利用者本位のサービス提供を図ります。

■障害者生活支援センターは、基幹型相談支援事業所でもあるため、一般相談支援事業所が作成する「支援計画」の質の向上を図るため、指導・支援内容の充実を図るとともに、指導・支援する本会職員の資質の向上に努めます。

■障害者虐待防止センターの事業については、関係事業所や市民へセンターの周知を図るとともに、虐待防止に関する研修などを実施します。

【実施状況】

■本人とその家族の相談内容に応じて関係機関や事業所、地域と必要な連携を行い、本人の意思を尊重した支援となるように努めました。

■基幹相談支援センターとして、中立・公平な相談支援事業を実施するとともに、市における相

談支援の中核的な役割を担い、相談支援事業所へのサービス支援計画作成の指導に努めました。また、本会職員の知識の研鑽・資質の向上を図るために、研修への参加や新たな資格を取得しました。

- 関係機関や事業所、地域との連携を図り、地域課題の解決に向けて、市と協働して障害者自立支援協議会の運営に努めました。
- 障害者虐待防止センターの機能や役割、虐待防止への取り組みについて、会議及びセミナーなどを通じて市民へ周知しました。また事業所を訪問して現状把握を行い、虐待防止に関する研修を実施しました。

(7) 宗像市ボランティアセンター事業の充実

- 「V-net むなかた」の運用を市から受託し、ボランティア活動の希望や依頼に関する情報を集約・一元化し、市内のボランティア資源を活用しながら、様々なボランティア活動の調整業務を行います。
- 本会では、地域福祉の先駆的・開拓的役割を担うことから、今後とも地域のニーズに応じた福祉ボランティアの養成と支援、連携と協働による活動を展開していきます。
- 障害者差別解消法による合理的配慮の観点から、視覚及び聴覚等に障がいがある人への情報伝達の手段・方法である手話及び点字、声の広報や要約筆記等に関するボランティア活動の充実に努めます。
- 学校などにおける福祉教育では、ボランティアが参加・協力する機会が増えていることから福祉教育活動とボランティア活動との連携・強化に努めます。

【実施状況】

- 「V-net むなかた」の運用を柱に福祉や子育て支援、歴史、まちづくりなど多分野に渡るボランティア活動の希望・依頼に関する情報を集約・一元化し、ボランティアを必要とする人（団体）への調整及び連携に努めました。
- 福祉教育の観点から年代に応じたボランティアに関した学びの場づくり、現代社会特有の複雑困難化した課題に対応できるように、ボランティア・市民活動団体等の多種多様な社会資源の活用による重層的な支援体制づくりに努めました。

(8) 宗像市発達支援センター療育施設のぞみ園の経営改善と利用者へのサービスの充実

- 発達支援センターの療育部門として、一体的な事業を展開するとともに連携を図り、発達に課題のある幼児に対し、相談から療育まで統一的な発達の支援を行います。また保護者や発達に課題のある幼児については、サービス等利用計画に基づいて個別の児童発達支援計画を作成し、支援計画に添った療育の実施・評価・見直しを行います。
- 年々増え続ける発達に課題のある幼児やその保護者に合わせた、個別指導やグループ指導などの多様な療育の充実を図ります。また、定期的に保護者からの聞き取りを行い、現状における評価とニーズを捉えた上で、個別支援会議を実施し、療育内容の見直しやクラス編成等の見直しを行います。
- 保育所・幼稚園との連携を図ることで、より良い療育支援を行っていくとともに、保育所や幼稚園の未就園幼児については、療育の機会を増やすことで、よりスムーズに就園へ向かえるよう、ニーズに応じた利用ができる枠を設けます。
- 「のぞみ園」の安全上の課題に対応するため、国や県の指導に基づき「防災計画」や「防犯計画」の設置と適切な運営を行います。また、療育スキルと職員スキルの向上を目的とした、視察研修や各種研修会への参加、症例検討会、園内研修、新任職員研修等を実施します。
- 相談支援事業のサービス等利用計画が、発達に課題や心配のある幼児とその家族のニーズを捉え、的確な計画が立てられるよう体制の整備を行うとともに、必要な各種研修会等への参加を図り、サービス等利用計画を充実します。
- 相談支援の中で、家族からの相談に対し、地域資源や福祉制度についての的確なアドバイスが行えるよう、他事業所や各関係機関との連携や情報交換等を行います。
- 平成30年度以降、関係法令の改正にともなう新たな事務や人員配置、届出等が発生するため、法令等を遵守し、適切な運営と事務等を遂行します。

【実施状況】

- 円滑で適正な事業運営のための取り組み
発達支援センターの療育部門として、一体的な事業を展開するとともに発達相談室との連携を図り、発達に課題のある幼児と保護者に相談から療育まで統一的な発達支援を行いました。

また保護者や幼児には、サービス等利用計画に基づく児童発達支援計画書を作成し、支援計画に沿った療育の実施・評価・見直しを行いました。

■相談支援事業の充実

年々増え続ける利用者やその保護者に合わせ、相談支援専門員の配置を2人体制とし、個別指導やグループ指導などの多様な療育の充実を図りました。また、定期的に保護者からの聞き取りを行い、現状における評価とニーズを捉えた上で、必要なサービスが必要な時期に適切に受けられるよう支援利用計画の作成とともに個別支援会議を実施し、療育内容及びクラス編成等の見直しを行いました。

■相談支援事業によるサービス等利用計画については、発達の課題や利用者の特性、その家族のニーズを捉え、的確な計画が立てられるよう体制の整備を行うとともに、必要な各種研修会等への参加に努め、サービス等利用計画の内容の充実を図りました。また相談支援事業の中で、家族の相談に対し、地域資源や福祉制度についての的確なアドバイスが行えるよう他事業所や各関係機関との連携や情報交換等を行いました。

■療育等の質の向上への取り組み

保育所及び幼稚園等と密に連携を図ることでより良い療育支援を実行するとともに、保育所や幼稚園への未就園幼児については療育の機会を増やすことで、よりスムーズに就園へ向かえるよう、ニーズに応じた利用ができる支援を行いました。

■職員のスキル向上のための取り組み

施設の安全管理上の課題に対応するため、国や県の指導に基づき、本園が独自に策定した防災・防犯計画に沿って、具体的な役割分担と動作確認を含む職員防犯研修を行いました。また、療育スキル等の向上を目的とした視察研修や各種研修会への参加、症例検討会、園内研修等を実施し、安全な施設の運営管理に努めました。

■新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点から、卒園式を4回に分けて実施するなど、感染拡大防止に努めました。また、4月7日の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」発令後、のぞみ園は休園措置が実施されており、利用者・保護者ともに園の利用ができないため、電話による現況確認を日々行うとともに、職員については、「出勤調整」を核とした「3密（密閉・密集・密接）防止対策」を実施し、可能な限り、園事業が継続できる体制整備に努めました。

（９）高齢者及び障がい者への介護サービス事業経営の安定化と利用者へのサービスの充実

■介護保険法の改正等に大きく影響される状況の事業経営において、本会が運営する介護サービス等の目的(意義)や目標(目指すべき方向性)を改めて設定する必要があり、第４次活動計画の際に明記に努めます。

■2021年度の介護保険法改正では、現在以上に進んだ改正が行われることが予定されており、さらに本会が行う介護保険法や障害者総合支援法に関連する事業の経営が厳しくなることが想定されるため、第4次活動計画に基づき、現実的かつ具体的な業務改善・改革を行い、時代に淘汰されない事業運営体制の構築に努めます。

【実施状況】

■介護保険事業については、国の動向等を含め業務改革が必要な事項について検討を行い、時代に淘汰されない安定的な事業運営体制の構築を目的とした目標づくりに努めました。

■介護保険サービス事業については、「訪問介護」「訪問独自（介護予防・総合事業）」「居宅介護支援事業」の事業所の指定更新業務を行いました。

■居宅介護支援センターについては、費用の負担軽減と業務の効率化を図るため「介護保険事務システム」を入れ替えました。ホームヘルパーステーションについては、人員配置の見直し等による業務改善に努めました。

■4月7日に発令された「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」に基づいて、訪問介護及び居宅介護支援に関する事業所を運営している本会では、「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」を参考にサービス提供時における感染拡大防止を徹底するとともに、職員については、「在宅ワーク」と出勤退勤時間の「タイムシフト制」を核とした「3密（密閉・密集・密接）防止対策」を実施し、可能な限り標記事業が継続できる体制整備に努めました。

2 法人運営に関する事業

(1) 本会の運営に関する事業

■理事会の開催 (3 回開催 25 議案)

開催時期・会場	議案番号	議 案	議決(承認) 月 日
第 1 回 ■令和元年 6 月 13 日 ■メイトム宗像 101 会議室	第 1 号	処務規程の一部改正について	令和元年 6 月 13 日
	第 2 号	嘱託職員の給与に関する規程の一部改正について	
	第 3 号	臨時職員の賃金に関する規程の一部改正について	
	第 4 号	評議員候補者の推薦について	
	第 5 号	平成 30 年度事業報告について	
	第 6 号	平成 30 年度決算報告ならびに監査報告について	
	第 7 号	令和元年度第 1 回評議員会の日時及び場所並びに議題・議案について	
第 2 回 ■6 月 27 日 ■メイトム宗像 203 会議室	第 8 号	会長・副会長の選任について	令和元年 6 月 27 日
	第 9 号	常務理事の同意について	
	第 10 号	専門委員会委員の選任について	
第 3 回 ■令和 2 年 3 月 18 日 ■メイトム宗像 202 会議室	第 11 号	専決処分の承認について(令和元年 7 月 1 日 指定訪問介護事業所、指定介護予防訪問介護事業所運営規程の一部改正)	令和 2 年 3 月 18 日
	第 12 号	専決処分の承認について(令和元年 8 月 24 日 介護予防・日常生活支援総合事業における指定訪問型サービス事業所運営規程の一部改正)	
	第 13 号	専決処分の承認について(令和元年 9 月 24 日 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(居宅介護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正)	
	第 14 号	専決処分の承認について(令和元年 9 月 24 日 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(重度訪問介護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正)	
	第 15 号	専決処分の承認について(令和元年 9 月 24 日 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(同行援護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正)	
	第 16 号	専決処分の承認について(令和元年 9 月 24 日 宗像市宗像市社会福祉協議会ライフサポート事業運営規程の一部改正)	
	第 17 号	専決処分の承認について(令和元年 12 月 3 日 職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規則の一部改正)	
	第 18 号	専決処分の承認について(令和元年 12 月 24 日 職員給与規程の一部改正)	
	第 19 号	職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規則の一部改正について	
	第 20 号	嘱託職員の給与に関する規程の一部改正について	
	第 21 号	臨時職員の賃金に関する規程の一部改正について	
	第 22 号	宗像市宗像市社会福祉協議会スマイルハート事業運営規程の一部改正について	
	第 23 号	令和 2 年度事業計画(案)について	
	第 24 号	令和 2 年度予算(案)について	
	第 25 号	令和元年度第 2 回評議員会の日時及び場所並びに議題・議案について	

■評議員会の開催（2回開催 19議案）

開催時期・会場	議案番号	議 案	議決（承認） 月 日
第1回 ■令和元年 6月27日 ■メイトム宗像 202会議室	第1号～第12号	理事の選任について	令和元年 6月27日
	第13号～第14号	監事の選任について	
	第15号	平成30年度事業報告について	
	第16号	平成30年度決算報告並びに監査報告について	
第2回 ■3月26日 ■メイトム宗像 202会議室	第17号	理事の選任について	令和2年 3月31日 (書面決議)
	第18号	令和2年度事業計画(案)について	
	第19号	令和2年度予算(案)について	

（2）定款・諸規程の整備

種別	議案	議決（承認） 月 日
■諸規程	・処務規程の一部改正 ・嘱託職員の給与に関する規程の一部改正 ・臨時職員の賃金に関する規程の一部改正 ・指定訪問介護事業所、指定介護予防訪問介護事業所運営規程の一部改正 ・介護予防・日常生活支援総合事業における指定訪問型サービス事業所運営規程の一部改正 ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(居宅介護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正 ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(重度訪問介護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正 ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス(同行援護)社会福祉法人宗像市社会福祉協議会運営規程の一部改正 ・宗像市社会福祉協議会ライフサポート事業運営規程の一部改正 ・職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規則の一部改正 ・職員給与規程の一部改正 ・嘱託職員の給与に関する規程の一部改正 ・臨時職員の賃金に関する規程の一部改正 ・宗像市社会福祉協議会スマイルハート事業運営規程の一部改正	令和2年 3月18日

（3）経営戦略会議の開催

- 事業説明：本会の運営に関する諸事項について、基本的な方針を検討・決定する会議。
- 出席者数：会長・常務理事・事務局長・福祉企画課長・居宅介護課長
- 開催時期：毎月最終火曜日

（4）計画的な職員研修の開催

- 事業説明：社会福祉の現場で働く職員として必要な安全運転や人権等の研修を行っている。

実施事業	実施時期	主な活動内容
安全運転管理者講習会	■8月2日 ■宮若市	対象者：居宅介護課長・総務福祉係長 出席者数：2人 内容：道路交通法に定められた正副安全運転管理者の講習会。

職員安全運転 研修会	■3月実施	対象者：原則として常勤日勤臨時職員以上 実施者数：41人 内 容：安全運転診断シート(個別回答方式)を配布し、診断結果を確認することで、自身の運転傾向について振り返りとした。
職員人権研修会	■2月20日 ■メイトム宗像 202会議室	対象者：原則として常勤日勤臨時職員以上。 出席者数：41人 演 題：「不登校・ひきこもりの理解と支援」 講 師：教育文化研究所 代表 長阿彌 幹生 氏

(5) 定例監査の実施

- 事業説明：法人の適切な経営を行うため、年3回定期的に監査員による会計等の監査を実施。監査の結果については、年度の第1回理事会・評議員会にて結果を公表している。

(6) 労働安全衛生委員会の実施

- 事業説明：本会の労働安全衛生や労働環境に関する諸事項について、基本的な方針を検討・決定する会議。
- 委 員：事務局長・福祉企画課長・居宅介護課長・衛生管理者・部門別代表等 計10人
- 開催時期：偶数月の第2金曜日

(7) 宗像市社会福祉法人連絡会の運営支援

- 事業説明：宗像市内に事業所のある25の社会福祉法人で構成する「宗像市社会福祉法人連絡会」が、平成30年11月20日に結成された。本会は事務局として、役員会・全体会議兼実務者会議・広報委員会等の運営支援を行った。
また、社会福祉法人の地域貢献活動として、地域からの要請により、高齢者の会食会などへの送迎支援を行った。

■会議等

役員会	4/23、6/4、7/16、8/27、10/28、11/22、12/20、3/25
全体会議兼実務者会議	5/17、8/9、12/6
広報委員会	1/17、2/13、2/25、3/12

■社会福祉法人の地域貢献活動

地域・依頼内容	期日	協力法人数
日の里地区福祉会 ふれあい会食会への送迎支援	11月24日(日)	3法人
自由ヶ丘地区福祉会 えがおの会会食会への送迎支援	11月13日(水)、28日(木)	8法人(延べ)

3 “ともにいきるまち宗像” 推進事業の充実

■宗像市委託事業

(1) 生活支援体制整備事業

■事業説明

平成31年4月に「生活支援体制整備事業」の委託を受け、市内全域を圏域とする第1層、中学校区を圏域とする第2層それぞれに生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)を配置し、コミュニティごとに「協議体」の設置と、既存の活動の充実および地域資源等新たな活動の創出に向けた取り組み等を行った。

■事業内容：

第1層 (圏域/宗像市全域)

■職員体制：第1層生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員) 1人 ※第2層兼務

■業務内容

- (1) 第2層地域支え合い推進員担当者会議の実施(月1回/全11回開催)
5/14、6/11、7/12、8/8、9/13、10/16、11/13、12/11、1/16、2/12、3/10
- (2) 事業周知のため広報活動
- 広報「社協だより」で事業内容を掲載
 - ・令和元(2019)年6月1日号に掲載し、生活支援体制整備事業の事業紹介を行った。
 - 事業周知のためのパンフレット作成・発行(令和元(2019)年11月発行)
 - ・「生活支援体制整備事業～住み慣れた地域で支え合いいきいきと安心して暮らせるまちをめざして～」を発行
 - ・第2層協議体及び地域の会合等で配布し事業周知を図った。
- (3) 地域資源(社会資源)把握・発掘のためのパンフレット作成
- 「地域のお宝」(地域資源)探してます!の作成・発行(令和元(2019)年11月発行)
 - ・第2層協議体及び地域の会合等で配布し、「地域のお宝」の趣旨説明および情報提供を依頼した。
 - ・事業周知と情報提供依頼後に、地域、団体、個人から情報提供があり、取材等を行った。
- (4) 第1層協議体の実施▶新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い中止【2/25中止決定】
- 【日時】 令和2(2020)年3月24日(火)13:00～16:00
- 【内容】 第1部/第2層協議体の活動報告 第2部/地域のお宝(地域資源)発表会
- 【会場】 メイトム宗像 多目的ホール
- 【講師・コーディネーター】 ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏

第2層 (圏域/中学校区/6圏域)

■ 職員体制：第2層生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)4人※10月より5人

■ 業務内容：

(1) 協議体の設置・運営

- ・コミュニティごとに11の協議体を設置し、各地域の実情や課題に応じたテーマをもとに話し合いの場(協議体)を設けた。
- ・協議体(話し合いの場)には、地域の住民をはじめ、コミュニティ、事業所、商店、施設、学校等が参加した。

地区	協議体の名称	開催日	話し合いのテーマ(抜粋)
吉武	よしただけ福祉の郷づくり	4/7、5/17、6/12、7/10、8/7、9/11、10/9、11/13、12/11、1/15、2/13、3/12	郷づくりサロン
赤間	赤馬快堂	4/12、6/28、9/4、10/30、12/11、3/4(中止)	買い物ツアー・お試しプラン
赤間西	あかにこの輪	4/18、6/19、8/30、9/24、10/31、12/12、2/7	居場所づくり・企画/見学
自由ヶ丘	おかりん家族	8/31、12/8、3/20(中止)	教えて!子どもから高齢者に関する地域のお宝
河東	かとうの星	5/30、7/19、10/11、1/28	送迎支援・介護保険勉強会
南郷	南 GO!このみ隊	5/23、7/30、10/3、1/8、3/10(中止)	朝野おしゃべり会 居場所・集いの場
東郷	やよい東郷	5/24、8/21、11/21、2/25	地域の自慢・お宝さがし
日の里	いきいき日の里	5/18、7/5、10/17、1/31	子どもと高齢者がつながり支えあえる活動
池野	池野わくわく茶屋	4/26、6/25、8/27、11/5、1/16	居場所づくり/企画・報告
玄海	玄海しゃべり Bar	5/14、7/23、9/25、11/29、3/4(中止)	買い物支援・地域のお宝さがし
岬	鐘崎ノース BAR	5/29、7/31、10/23、2/7	地域座談会・新たな居場所づくり

(2) 地域資源の把握と創出

- ・「地域のお宝探してます」パンフレット等を活用し、住民から地域資源の情報収集を行うとともに、直接地域の取材に行き地域資源の把握を行った。また、把握した地域資源をまとめ、地域包括支援センター等へ情報提供を行った。

(3) 地域ケア会議への参加

- ・各地域包括支援センターが開催する地域ケア会議に出席し、地域資源などの情報提供を行った。

(4) 宗像市との連携

- ・委託元の宗像市(高齢者支援課)と連携し、月1回の定例会議による情報共有を行った。

(2) 福祉会組織化・育成事業

①福祉会組織化・育成事業

■福祉会とは

福祉会は、自分の住んでいる地域を住民の手で（＝参画・協働）誰もが生活しやすいように（＝共生社会）活動を行う（＝福祉力を高める）住民の自主的な組織であり、自治会単位（小地域）の福祉会を「小地域福祉会」、13 地区コミュニティ単位の福祉会を「地区福祉会」と称している。

■福祉会組織化の経緯

福祉会は、宗像市社会福祉協議会基盤強化計画書（昭和 61 年 1 月策定）にて、“活動のための組織体制強化策”として始めた事業。昭和 62 年に「小地域福祉会組織化事業」が開始され、昭和 63 年 4 月に自由ヶ丘地区に本市で最初の福祉会「自由ヶ丘地区社会福祉会（現：自由ヶ丘地区福祉会）」が発足した。その後、各地域で福祉会が組織化された。平成 10 年 7 月 10 日に赤間西地区福祉会が発足し、旧宗像市においては市内 8 地区全域に福祉会が組織化された。平成 15 年 4 月 1 日に玄海町と宗像市が合併、これに伴い両社会福祉協議会も平成 15 年 3 月 31 日に合併、新たな福祉会の組織化が平成 15 年度に再開した。平成 15 年 9 月 21 日に神湊地区福祉会が発会、平成 16 年 1 月 25 日の田島地区福祉会の発会をもって、旧玄海町 4 地区（市内 12 地区）全域に地区福祉会が組織化された。平成 17 年 3 月 31 日には、本会が大島村社会福祉協議会と合併したのを機に、大島村福祉会（現：大島地区福祉会）が宗像市 13 番目の地区福祉会となった。

■各福祉会の取り組み

※【 】は地区福祉会

地 区	福祉会名	主な活動内容
吉武地区	【吉武地区福祉会】	楽しく食べて語るバスハイク、介護予防いきいき交流会事業/すみれサロン(9 回)、孝行ネットの推進、先進地視察研修、ボランティア育成、世代間交流事業(3 回)、福祉の郷づくりサロンへの協力
赤間地区	【赤間地区福祉会】	小地域福祉会情報交換会(12 回)、先進地視察研修、小地域福祉活動研修、地区福祉会春の講演会(高齢者閉じこもり予防事業)、赤馬ほっとラインネットワーク活動更新
	赤間区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(9 回)、福祉会花壇作業、1 日バスハイク、福祉研修会
	石丸区福祉会	一人暮らし高齢者見守り活動(月 1 回)、世代間交流事業(芋掘り大会、どんど焼き)、ニュースポーツと食事会、介護予防いきいき交流会事業(3 回)
	徳重区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(バスハイク、認知症予防・ストレッチなど 4 回)、お花見、新入生進級歓迎会、道路クリーン活動、世代間交流事業(どんど焼き、餅つき・ぜんざいづくり)
	田久区福祉会	活動なし(福祉会長が未選任であるため)
	陵巖寺区福祉会	ふれあい会食会サロン(二葉会/8 回)、1 日バスハイク、高齢者料理教室、友愛見守り活動(随時)、世代間交流事業(ニュースポーツ大会、昔遊び伝承、餅つき大会)、広報誌「きぬがさ」発行(年 6 回)
	三郎丸団地区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(3 回)、高齢者への声かけ・安全確認、健康測定会支援、敬老の日記念品贈呈
	広陵台 1 丁目福祉会	介護予防いきいき交流会(14 回)、子ども登校見守り事業、元気アップ運動教室、ラジオ体操・朝カフェ、イキイキ散歩・水曜サロン、道路クリーン事業、バスハイク
	葉山区福祉会	ふれあい昼食会(早月の会、福祉忘年会、椿まつり:3 回)、介護予防いきいき交流会事業(葉山まつり出展手芸品づくり、ダーツ競技大会等、計 9 回)、福祉ボランティア研修会(春季・秋季)、世代間交流事業(イモ苗植え、芋掘りぜんざい会)、三社参りバスハイク、餅つき大会、赤馬ほっとライン登録の促進、分別収集・廃品回収のお手伝い
	名残区福祉会	敬老祝賀会、福祉委員会

	富地原区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(4回)、環境保全活動(清掃)(12回)、世代間交流事業(餅つき大会、どんど焼き)、健康測定会への協力、福祉だより「ふじわら」発行(年1回発行 3月)
赤間西地区	【赤間西地区福祉会】	見守りネットワーク活動の推進、地域ボランティア登録事業の推進、赤間西小 6 年福祉教育への協力、福祉会広報を「きらめき赤間西」に掲載、ステップアップ研修、サロン調整会議(福祉会長会)、先進地視察研修、関係団体との交流会(市内 3 地区福祉会)
	土穴区福祉会	福祉員による見守り訪問活動、介護予防いきいき交流会事業(10回)、乙女の会(女性独居高齢者の会)・金太郎会(男性独居高齢者の会)の開催、玄米ニギニギ体操、バスハイク
	城ヶ谷区福祉会	見守り声かけ助け合い活動、介護予防いきいき交流会事業(あすなろ会/8回)、朝のラジオ体操、独居高齢者との懇談会、城ヶ谷見守りネットワーク、包丁研ぎ、恵愛保育園園児と高齢者とのふれあい活動、小学校登下校防犯パトロール
	赤間ヶ丘1区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(5回)
	赤間ヶ丘2区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(7回)、バスハイク、声かけ挨拶運動、刃物研ぎ
	三郎丸区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(お宮・お堂を守る会、バスハイク、ニギニギ体操など:5回)、世代間交流事業(千燈明祭支援)、刃物研ぎ、登校時の声かけ
	城山区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(11回)、登下校時子ども見守り活動、刃物研ぎ、見守りネットワーク活動
	大谷区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(6回)、子どもの見守り活動情報交換、子ども会ラジオ体操、赤間西小6年「吹矢クラブ」交流、赤間西小で交流会(2回)
	泉ヶ丘1丁目福祉会	介護予防いきいき交流会事業(バスハイク、みかん狩り、包括の話など7回)、城山まつり、骨密度測定、泉ヶ丘1丁目カフェ、寺子屋イン泉ヶ丘1丁目(5回)
	泉ヶ丘2丁目福祉会	介護予防いきいき交流会事業(6回)、どんど焼き、秋のレクリエーション「謎解き!ウォークラリー」、刃物研ぎ、泉ヶ丘2丁目にこにこカフェ(6回)、下校時学童の見守り、広報誌発行
	アーサー赤間駅前福祉会	地域ボランティア登録事業への取り組み、介護予防いきいき交流会事業(3回)、七夕会、敬老祝賀会、クリスマス会
	アンピール赤間駅前福祉会	介護予防いきいき交流会事業(1回)、七夕祭り会、花火大会、クリスマス会
自由ヶ丘地区	【自由ヶ丘地区福祉会】	福祉委員による見守りネットワーク活動(65歳以上独居者・80歳以上の高齢者・その他対象者)、介護予防いきいき交流会事業(10ヶ所/37回)、小地域福祉会の組織化の推進、福祉だより「ほほえみあい」、ミニ広報「お元気ですか」の発行、福祉情報連絡会の開催(区会単位で年6~12回開催)、民生委員との懇談会、福祉委員会議、福祉委員研修会
河東地区	【河東地区福祉会】	情報交流会、ボランティア研修、視察研修、役員会
	須恵区福祉会	高齢者バスハイク、見守り訪問活動、介護予防いきいき交流会事業(3回)、敬老祝賀会、認知症サポーター養成講座
	稲元区福祉会	世代間交流会、日帰りバス旅行、介護予防いきいき交流会事業(3回)、認知症サポーター養成講座、高齢者見守り活動(ひまわりネット)
	福崎区福祉会	三世代交流会、介護予防いきいき交流会事業(4回)
	ひかりヶ丘福祉会	世代間交流事業、フリーサロン、バスハイク、介護予防いきいき交流会事業(6回)、見守り訪問活動、たんぼぼの会活動、声かけ安全パトロール、福祉だよりの発行

	城西ヶ丘区福祉会	おしゃべりサロン、ふれあいバスハイク、夏祭り、視察研修、どんど焼き、介護予防いきいき交流会事業(4回)、城西ヶ丘見守りネットワークむすび愛への協力
	天平台区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(2回)、福祉講演会、認知症サポーター養成講座、役員研修、おしゃべりカフェ(月1回)、バスハイク
	樟陽台区福祉会	介護予防いきいき交流会事業(3回)、世代間交流、環境美化事業、認知症サポーター養成講座、バス旅行
南郷地区	【南郷地区福祉会】	福祉協力員研修、バスハイク、楽しく食べて語ろう会【楽食会、世代間交流】(2回)、先進地視察研修、シルバー農園、介護予防いきいき交流会事業(11か所/57回)、ふれあい見守り活動、愛の年賀状宛名書き
東郷地区	【東郷地区福祉会】	福祉委員研修及び会議、赤い羽根ふくし事業、民生委員児童委員との意見交換会、介護予防いきいき交流会事業(10か所/57回)、福祉委員施設研修、レクリエーション研修会
日の里地区	【日の里地区福祉会】	ネットワーク推進会議(年6回)、主任福祉員会議(年6回)、町内会長(福祉会長)と主任福祉員との意見交換会、民生委員と主任福祉員研修会、福祉員のための福祉講座、ふれあい昼食会、おもちゃ病院、視察研修、シルバー農園、介護予防いきいき交流会事業、「向こう三軒両隣りネット(ご近所ネット)」の周知・推進、各町内会福祉会による活動
神湊地区	【神湊地区福祉会】	65歳以上一人暮らしバスハイク(春)、ふれあいお楽しみバスハイク(秋)、花いっぱい見守り訪問活動、介護予防いきいき交流会事業(3か所/22回)、理事・福祉協力員研修会、どんど焼き
池野地区	【池野地区福祉会】	介護予防いきいき交流会事業(4か所/14回)、玄海ニュータウンサロン(1回)、桜町サロン(1回)、公園通りサロン(2回)、やまびこサロン(10回)、池野地区サロン(4回)、【七夕会、秋ふれあい、クリスマス会、新春会】ひとり暮らし高齢者バスハイク
岬地区	【岬地区福祉会】	70歳以上一人暮らしバスハイク、介護予防いきいき交流会事業(2か所/2回)、ふれあいクリスマス会、福祉協力員研修、施設研修、岬地区寄席、観劇ハイク、運営委員会(年3回)
田島地区	【田島地区福祉会】	65歳以上一人暮らしバスハイク(春)、ふれあいお楽しみバスハイク(秋)、70歳以上一人暮らし見守り訪問活動、介護予防いきいき交流会(2か所、計13回)、新役員研修
大島地区	【大島地区福祉会】	各区おしゃべり会サロン(12回)、初盆参り(10人)、各区対抗スポーツ大会(6月)、敬老会、新成人式を祝う会、山笠・盆踊り・健康福祉ミニまつり

②地域ネットワーク活動の充実（各福祉会の取り組み参照）

■事業説明：小地域ネットワーク活動とは、民生委員児童委員、福祉会の地域ケア型ボランティア、シニアクラブ連合会、地域の事業所が連携・協力して、単身高齢者世帯等への定期的な見守り・訪問活動・できる範囲での生活援助活動などを行う取り組み。

（３）介護予防いきいき交流会事業の実施と事業の充実（市委託事業）

①介護予防いきいき交流会事業

■事業説明：高齢者の閉じこもり予防や日常の健康を維持することを目的とした「いきいきふれあいサロン活動」を活用し、介護予防の内容を充実させた事業を行っている。なお、介護予防いきいき交流会事業には、「地島ミニデイサービス」と「おおしまDEいきいき元気教室」も含まれる。

■事業内容：●各区、町内会で行われている高齢者等を対象にしたサロン活動において、血圧、体脂肪等の測定及び簡単な健康相談などの健康チェックを実施。
●介護予防メニューとして、口腔ケア、栄養指導、運動指導を実施。

■運営体制：市から本会への委託事業。各福祉会が実施し、本会は支援、協力、調整などを行っている。

地区ごとの 実施状況	開催箇所 (単位:ヶ所)	開催回数 (単位:回)	栄養指導 (単位:回)	口腔ケア (単位:回)	運動指導 (単位:回)
吉 武 地 区	8	9	0	4	3
赤 間 地 区	8	54	5	2	8
赤 間 西 地 区	11	69	6	3	9
自由ヶ丘地区	9	39	0	2	4
日 の 里 地 区	12	51	2	4	2
南 郷 地 区	11	57	6	3	16
河 東 地 区	7	27	5	0	5
東 郷 地 区	10	57	3	2	14
池 野 地 区	4	18	8	0	2
田 島 地 区	2	12	0	0	2
神 湊 地 区	3	19	2	3	6
岬 地 区	2	2	0	0	1
大 島 地 区	4	12	0	0	0
合 計	91	426	37	23	72

■事業実績：●延べ参加者数：8,255人（65歳以上）・807人（64歳以下）

●延べ従事者数：3,838人

●合 計：12,900人

②介護予防いきいき交流会事業推進協力者研修の実施

■事業説明：いきいきふれあいサロン活動の内容の充実と活動に関わる人材育成を目的に、研修会を開催。

■実施期日：令和元年6月21日（金）10:00～12:00

■実施場所：メイトム宗像 多目的ホール

■内 容：事例発表、実践コーナーの2部構成で研修会を実施。

◇事例発表「泉ヶ丘2丁目にここカフェ」 発表者：明鹿野 裕子 氏

「よしたけ福祉の郷づくりサロン」

発表者：吉武地区コミュニティ運営協議会 事務局長 高山 國敏 氏

◇実践コーナー

「口腔ケアとは、なにか?!」 講師：歯科衛生士 出光 早月 氏

参加者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年
	171 人	208 人	168 人

③地島ミニデイサービス事業の適切な運営

■事業説明：離島の高齢者の健康増進と介護予防を目的とした事業。毎回、健康チェックを実施している。

■実施場所：地島白浜公民館及び泊公民館

実施時期	参加者数	主な活動内容
5月28日	3人	健康チェック、自宅でできるつま先・かかと上げ筋トレ、スクワット、転倒予防・認知機能向上のための「スクエアステップ」（よつづか）
6月10日	8人	健康チェック、健康講話「人生100年時代」、貯筋体操&スクエアステップ（よつづか）
7月29日	7人	健康チェック、健康講話「認知症についての話」、頭を使ったクイズ、手先を使った運動（よつづか）
8月20日	3人	健康チェック、健康講話「認知症についての話」、頭を使ったクイズ、手先を使った運動（よつづか）

9月25日	6人	健康チェック、健康講話「健康について」、今後地島でどうしたいか「よつづかがお手伝いできること」(よつづか)
11月28日	7人	健康チェック、よつづかがお手伝いできること(前回の話の続き)、健康寿命をのばす「食」について(よつづか)
2月26日	8人	健康チェック、ニギニギ体操(スポーツ推進委員)、茶話会

④大島 DE いきいき元気教室の適切な運営

■事業説明：離島の高齢者の健康増進と介護予防を目的とした事業。毎回、健康チェックを実施している。

■実施場所：大島ふれあいセンター、大島地区コミュニティ・センター

実施時期	参加者数	主な活動内容
4月18日	16人	体力測定、体操(頭頸部、上下肢)、レクリエーション(部首で漢字を作るゲーム、文章の文字数数えゲーム)、悠々体操
6月20日	14人	体組成計測定、上下肢リハビリ体操、レクリエーション(大盤オセロ)、悠々体操
6月25日	16人	健康チェック、下半身の筋力トレーニング、転倒予防・認知機能向上のための「スクエアステップ」
8月28日	17人	健康チェック、認知症について講話、頭を使った手先の体操
9月19日	13人	体力測定、体操(頭頸部、上下肢)、レクリエーション(紙コップ早並べ)、悠々体操
9月27日	16人	健康チェック、「認知症を予防する食事」について講話、転倒予防・認知機能向上のための「スクエアステップ」
10月30日	19人	健康チェック、「健康について～健康食品の使い方～」について講話、転倒予防・認知機能向上のための「スクエアステップ」
11月21日	15人	体組成計測定、上下肢リハビリ体操、レクリエーション(野菜名発表ゲーム、ジェンガ)、悠々体操
12月18日	13人	健康チェック、「笑いと健康」について講話、転倒予防・認知機能向上のための「スクエアステップ」
1月16日	13人	体力測定、体操(頭頸部、上下肢)、レクリエーション(基石とコインの数・重さ当てゲーム)、悠々体操
2月28日	—	新型コロナウイルス感染拡大予防対策に伴い中止
3月12日	—	新型コロナウイルス感染拡大予防対策に伴い中止

(4) 地区福祉会連絡協議会の活動状況

■事業説明：福祉会相互の情報交換、交流、研修等を通じ、それぞれの地域における福祉会活動を促進するとともに、市民参画型の地域福祉活動の充実を図ることを目的に平成9年に設置。13地区福祉会の代表者2名(会長、事務局長等)が協議会の理事となり、全26名で構成。

実施事業	実施時期	主な活動内容
理事会(総会)	5月29日	①平成30年度事業報告・決算報告及び監査報告について ②役員の選任について ③平成31年度事業計画・予算について
先進地視察研修	12月3日～4日	研修先:大分県国東市社会福祉協議会(大分県国東市) 里づくり旭日ネットワーク協議会 内 容:①国東市における地域包括ケアシステムの構築について ②里づくり旭日ネットワーク協議会による地域支えあい活動について
情報交換会 (反省会)	12月4日	※先進地視察研修2日目(12月4日)に実施 議題:国東市における地域包括ケアシステムの構築の経緯及び里づくり旭日ネットワーク協議会による地域支えあい活動の取組内容に関する感想・意見の発表

理事研修会	令和2年 3月24日(中止)	※新型コロナウイルス感染拡大予防対策に伴い中止 講 師:ご近所福祉クリエイター 酒井保氏 内 容:「見守るためのマップ」から「見守られるためのマップ」へ
-------	-------------------	--

(5) 宗像市民生委員児童委員協議会と連携・支援

■事業説明：宗像市民生委員児童委員協議会と連携・協働し、小地域ネットワーク活動の推進、生活福祉資金の運営、歳末たすけあい募金など、様々な地域福祉活動に取り組んでいる。

■宗像市民生委員児童委員協議会への活動費補助金の交付

補助金交付額	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	299,000 円	299,000 円	299,000 円

(6) 宗像市シニアクラブ連合会と連携・支援

■事業説明：宗像市シニアクラブ連合会と連携・協働し、小地域ネットワーク活動や介護予防いきいき交流会事業の推進、赤い羽根共同募金など、様々な地域福祉活動に取り組んでいる。

■宗像市シニアクラブ連合会への活動費補助金の交付

補助金交付額	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	512,000 円	512,000 円	512,000 円

(7) 福祉バス貸出事業の適切な実施

■事業説明：福祉団体等の研修や社会参加活動のため、福祉バスの貸出を行った。

貸出件数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	127 件	139 件	121 件

(8) ライフサポート事業等の実施

① ライフサポート事業（地域福祉権利擁護事業）

■事業説明：本会の独自事業として、高齢者、精神障がいのある人、知的障がいのある人などで判断能力が不十分な人の権利を擁護し、本人の意思に基づいて安心した生活を送ることができるよう支援する事業を平成25年8月1日から実施している。本事業利用の可否等を審査する「運営審議会」を偶数月（年6回）に開催している。また、これまで県社会福祉協議会が実施主体であった「福岡県日常生活自立支援事業」の市町村実施方式への移行決定に伴い、令和元年10月1日から事業を開始。

■支援内容：①生活支援サービス…定期訪問による見守り、郵便物の管理等
②生活費管理サービス…福祉サービス利用援助、日常必要な預貯金の出し入れ等
③通帳等預かりサービス…預貯金通帳の保管や管理等

■職員体制：生活支援員5人（うち4人は兼務）、市民生活支援員16人登録

■ライフサポート事業利用者数 【毎年3月末現在の利用者数】

項 目	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	実 績	前年比較	実 績	前年比較	実 績	前年比較
高 齢 者	12 人	+1 人	20 人	+8 人	20 人	
知的障害者	8 人		10 人	+2 人	9 人	-1 人
精神障害者	4 人		5 人	+1 人	7 人	+2 人
そ の 他	2 人		2 人		3 人	+1 人
合 計	26 人	+1 人	37 人	+11 人	39 人	+2 人

■ライフサポート事業利用内容

項 目	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	実 績	前年比較	実 績	前年比較	実 績	前年比較
生活支援サービス	26 人	+1 人	37 人	+11 人	39 人	+2 人
生活費管理サービス	22 人		32 人	+10 人	33 人	+1 人
通帳等預かりサービス	19 人	+3 人	31 人	+12 人	32 人	+1 人

■福岡県日常生活自立支援事業利用実績

(福岡県社会福祉協議会委託事業→令和元年10月1日から本会が実施主体)

項 目	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	実 績	前年比較	実 績	前年比較	実 績	前年比較
高 齢 者	3 人	-2 人	6 人	+3 人	3 人	-3 人
知的障害者	2 人		3 人	+1 人	3 人	
精神障害者	2 人	-1 人	4 人	+2 人	4 人	
合 計	7 人	-3 人	13 人	+6 人	10 人	-3 人

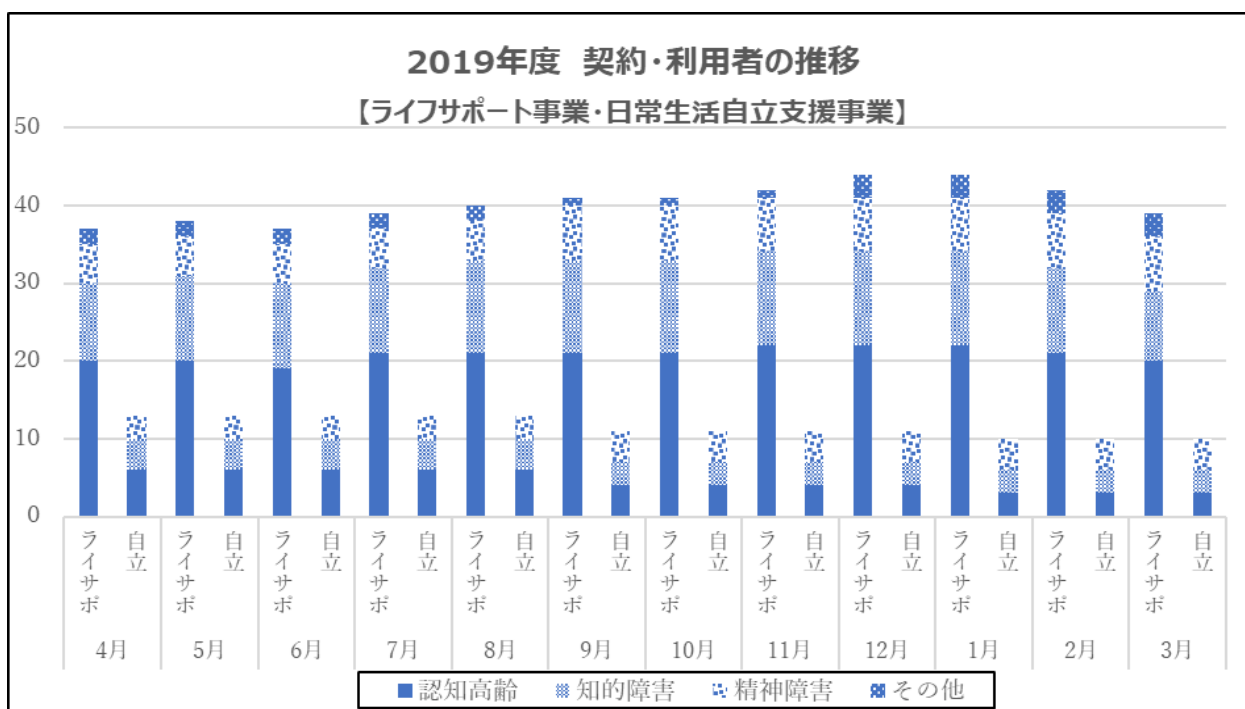
■ライフサポート事業・日常生活自立支援事業/契約・利用者の推移【2019 年度】

(単位:人)

	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立
高齢認知	20	6	20	6	19	6	21	6	21	6	21	4
知的障害	10	4	11	4	11	4	11	4	12	4	12	3
精神障害	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	7	4
その他	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0
小計	37	13	38	13	37	13	39	13	40	13	41	11
合 計	50		51		50		52		53		52	

(単位:人)

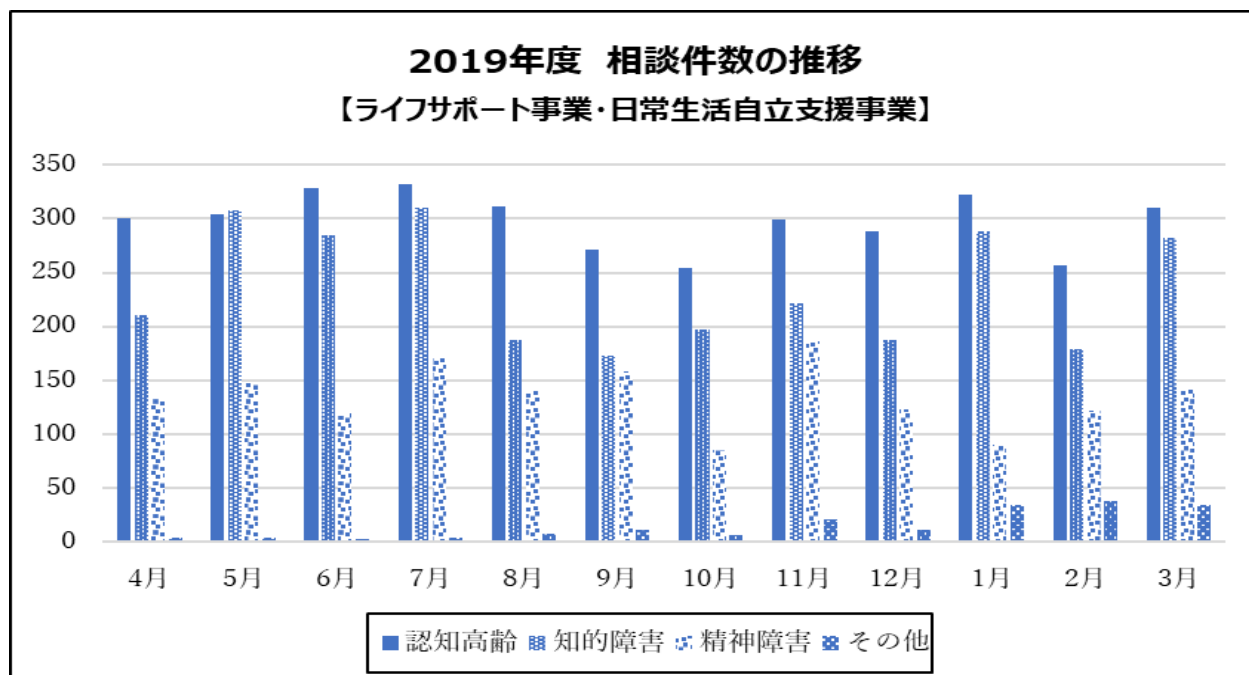
	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立	ライフ	自立
高齢認知	21	4	22	4	22	4	22	3	21	3	20	3
知的障害	12	3	12	3	12	3	12	3	11	3	9	3
精神障害	7	4	7	4	7	4	7	4	7	4	7	4
その他	1	0	1	0	3	0	3	0	3	0	3	0
小計	41	11	42	11	44	11	44	10	42	10	39	10
合 計	52		53		55		54		52		49	



■ ライフサポート事業・日常生活自立支援事業/相談援助件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知高齢	301	304	328	332	312	271	254	299	289	322	257	310	3,579
知的障害	211	308	285	310	188	173	197	222	187	288	179	282	2,830
精神障害	134	149	120	171	140	158	85	186	123	91	122	142	1,621
その他	4	4	3	4	8	12	7	21	11	34	38	35	181
合 計	650	765	736	817	648	614	543	728	610	735	596	769	8,211



②運営審議会の開催

■ 審議委員：弁護士・宗像・遠賀保健福祉環境事務所（健康増進課精神保健係長）、宗像市（健康課保健福祉政策係長、福祉課障害者福祉係長、高齢者支援課地域包括支援センター職員/社会福祉士）、精神保健福祉士（宗像病院/相談員） 計6人

■開催日程と主な内容

項目	実施時期	主な内容
第29回審議会	平成31年 4月23日	内 容：①委嘱状の交付 ②審議 ③契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：1901/知的. 1902/精神）
第30回審議会	令和元年 6月28日	内 容：①委嘱状の交付 ②審議 ③契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：1903/高齢. 1904/高齢）
第31回審議会	令和元年 8月19日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：1905/知的. 1906/精神）
第32回審議会	令和元年 10月23日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：4件（新規：1907/高齢. 1908/高齢. 1909/その他. 1910/身体）
第33回審議会	令和元年 12月23日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：1件（新規：1911/高齢）
第34回審議会	令和2年 2月28日	内 容：①審議 ②契約状況と現況報告・前審議会後の進捗状況 ▼審議案件：2件（新規：1912/高齢. 1913/高齢）

③その他の活動

項目	実施時期	主な内容
ケース会議	月 1 回 (計 12 回)	内 容：個別ケースの支援内容の検証と情報共有のための会議を毎月行った。 事例検討：個別ケースの事例に基づく検討会を実施 ■(2 ヶ月に 1 回)実施 計 6 回
「生活支援員のつどい」の開催	令和元年 9 月 18 日	目 的：ライフサポート事業・日常生活自立支援事業担当者を対象に、支援知識の習得および支援技術の向上を目的に生活支援員同士の交流を図る意見交換会を開催。 内 容：「ライフサポート事業（日常生活自立支援事業）の事例報告会」 講師①/市民生活支援員：與田 達雄 氏 講師②/市民生活支援員：小川 久美子 氏 場 所：メイトム宗像 202 会議室 参加者：市民生活支援員 9 人、生活支援コーディネーター等 9 人
福岡県日常生活自立支援事業 生活支援員研修会 (初任者編)	令和元年 6 月 20 日	内 容：講義・活動報告 講義「生活支援員に必要な対人援助技術」 講師/社会福祉士合同事務所ふくしのしてん 磯 訓康 氏 活動報告「生活支援員の対人援助のあり方について」 報告者①/嘉麻市社協 有吉 直子 氏 報告者②/朝倉市社協 奥村 雅子 氏 場 所：春日市クローバープラザ 参加者：市民生活支援員 1 人
福岡県日常生活自立支援事業 専門員研修会(前期)	令和元年 6 月 25 日	内 容：講義・演習 「判断能力が十分でない利用者に対する“本人の意思を尊重した支援”の在り方」 講師/ルーテル学院大学 総合人間学部 教授 福島 喜代子 氏 場 所：春日市クローバープラザ 参加者：担当職員 1 人
福岡県日常生活自立支援事業 生活支援員研修会 (実務者編)	令和 2 年 2 月 18 日	内 容：講義・事例検討 講義「高齢者・障がい者への経済的虐待と権利擁護について」 講師/福岡県社会福祉士会 副会長 稲吉 江美 氏 事例検討「お金を要求してくる次男（同居）との関係性を考える」 報告者/宗像市社協 篠原 沙稀 氏 場 所：春日市クローバープラザ 参加者：担当職員 1 人
福岡県日常生活自立支援事業 地区別会議	令和 2 年 2 月 26 日	内 容：①日常生活自立支援事業及び成年後見制度に関する中央情勢報告について ②日常生活自立支援事業内部監査マニュアルの活用について ③実地調査の実施について ④意見交換・質疑応答 場 所：中間市社協 参加者：担当職員 1 人
福岡県日常生活自立支援事業 実地調査	令和元年 12 月 18 日	内 容：日常生活自立支援事業の適正実施に向けた事業実施状況の点検。内部監査マニュアルをもとに実施。 場 所：本会 参加者：担当職員 2 人、県社会福祉協議会より 2 名来局

(9) 心配ごと相談所設置事業

■事業説明：心配ごと相談所への相談内容は、複雑化・多様化している。そのため、他の相談機関とも連携を図っている。主に、法律、財産、離婚、家族関係等の相談が全体の約7割を占めている。相談員は3人で、相談は個別（個室）面接方式で行っている。

■相談日：①毎月第1・2・4木曜日・場所：市役所1階

②偶数月第3木曜・場所：日の里コミセン

③奇数月第3木曜・場所：自由ヶ丘コミセン

■相談員：3人 ■相談件数合計：478件 ■利用者数：152人

■相談件数及び相談内容

内 容		人権 法律	財 産	家 族 関 係	離 婚 結 婚	生 計 年 金	住 宅	事 故	健 康 医 療	職 業 生 業	苦 情	福 祉 関 係	そ の 他	合 計
件 数	平成29年度	92	69	67	28	49	50	7	14	5	4	26	14	425
	平成30年度	103	72	75	33	54	39	10	16	10	1	23	11	447
	令和元年度	91	80	71	41	60	44	8	22	8	5	35	13	478

(10) 災害援助ボランティア活動における協力・連携

■令和元年度は、要請の実績無し。

(11) 宗像市遺族連合会活動への助成

■事業説明：宗像市遺族連合会へ活動費補助金の交付を行っている。

■宗像市遺族連合会へ活動費補助金の交付。

補助金交付額	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	1,099,000円	1,099,000円	1,099,000円

(12) 社協出前講座の実施

■事業説明：地域における住民主体の地域課題解決・包括的な支援体制の第一の取り組みとして、自治会など小地域を対象に出前講座を平成29年4月から開始した。

出前講座の内容は、地域課題や福祉課題解決に向けた「見守りネットワーク入門」「ご近所支え合いマップづくり入門」「福祉座談会」など12項目。

■実施回数：実施状況

講座No.	講座内容	平成29年度	平成30年度	令和元年度
No.3	「福祉会ってなに？」	3回	3回	生活支援 体制整備 事業の取 組みに 包含
No.4	地域の助け合い・支え合いを考える ～見守りネットワーク入門～	1回	1回	
No.5	地域の助け合い・支え合いを考える ～ご近所支え合いマップづくり入門～	3回	1回	
No.6	地域の助け合い・支え合いを考える ～福祉座談会～	1回	－	
No.7	暮らしの安心をサポートします ～地域福祉権利擁護事業～	2回	－	
合 計		10回	5回	

4 広報公聴活動の推進

(1) 社協だよりの発行

■事業説明：市広報紙「タウンプレスむなかた」を利用して、年6回（偶数月の1日号）発行。
市民に向けて、地域福祉活動及び本会活動等についての情報提供を行なっている。

実施時期	記事の内容
■第181号 4月1日発行 (2項)	チャリティボウリング大会お礼、在宅介護者1日リフレッシュセミナー参加者募集、声の広報活動の紹介、おもちゃ図書館休館日のお知らせ、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告）、認知症支援に関するお知らせ（オレンジカフェ日程・認知症サポーター養成講座のお知らせ・昨年度オレンジカフェ実績・オレンジカフェ開催者募集・オレンジカフェ情報交換会）ボランティアセンター通信（手話講習会受講者募集・ボランティア活動保険加入受付のお知らせ・V-net登録・更新のお知らせ・新ホームページのお知らせ）、他
■第182号 6月1日発行 (2項)	令和元年度社会福祉協議会事業計画・予算、シリーズ③赤間西小福祉教育の紹介、ボランティアセンター通信（手話講習会受講者募集）、障がい福祉講演会参加者募集、イオン黄色いレシートキャンペーン寄付謝礼、障害者生活支援センター（ピアサポート事業参加者募集・ピアサポーター紹介）、他
■第183号 8月1日発行 (2項)	認知症支援に関するお知らせ（認知症サポーター養成講座紹介・認知症本人と介護者のおしゃべりひろば案内・オレンジカフェ日程）おもちゃ図書館休館日のお知らせ、ひとり親家庭バスハイク参加者募集、平成30年度社会福祉協議会決算報告、在宅介護者1泊リフレッシュセミナー参加者募集、ボランティアセンター通信（点訳物に関するお知らせ）、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告・参加者募集）、地域福祉文庫講演会参加者募集、他
■第184号 10月1日発行 (3項)	赤い羽根共同募金協力のお願い（たすけあいの心、前年度実績額、使いみち、目標額、目安額、支えられている募金、災害等準備金積立）、共同募金配分団体紹介（NPO法人むなかた子育てネットワークこねっと）、認知症支援に関するお知らせ（認知症本人と介護者のサロン開催のお知らせ・RUN伴+2019宗像エリア開催のお知らせ・オレンジカフェ日程・認知症本人と介護者の歓談会のお知らせ）、在宅介護者1泊リフレッシュセミナー参加者募集、県民介護講座のお知らせ、地域福祉文庫講演会参加者募集、ボランティアセンター通信（ボランティア入門講座参加者募集・ジュニアボランティアスクール報告）、他
■第185号 12月1日発行 (2項)	福祉教育読本「ともに生きる」感想文と福祉絵画コンクール、おもちゃ図書館休館日お知らせ、障害者生活支援センター（ピアサポート事業報告・参加者募集）、歳末たすけあい募金協力依頼、シリーズ④宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会の紹介、黄色いレシートキャンペーン寄付謝礼、在宅介護者応援セミナー参加者募集、認知症支援に関するお知らせ（認知症本人と介護者の歓談会のお知らせ・認知症本人と介護者のサロン報告）、他
■第186号 2月1日発行 (3項)	赤い羽根共同募金謝礼（大島学園街頭募金隊・河東地区福祉会・宗像楽謡会）、寄付謝礼（藤島部屋・くりえいと宗像・宗像手をつなぐ会・岡垣第一幼稚園）、チャリティボウリング大会参加者募集、歳末たすけあい募金謝礼及び寄付者名簿、認知症支援に関するお知らせ（オレンジカフェ日程・認知症サポーターステップアップ研修会開催のお知らせ・オレンジカフェ実施団体募集）、ボランティアセンター通信（福祉ボランティア養成講座開催のお知らせ）、障害者生活支援センター（障害者虐待防止研修会報告）、他

(2) 本会ホームページの管理・運営

①ホームページの管理・運営

■事業説明：インターネットの活用による市内外の人へ24時間体制で情報を提供するとともに、「社協だより」、「ボランティアセンターだより」、本会の各種計画、地区福祉会の地域福祉活動計画等のデータベース化を行っている。

■実施内容：本会ホームページの管理・運営を行った。「バナー」広告に関しては、空きが生じ

ないように努め、全区画の利用につながっている。

アクセス ログイン数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	34,967 件	40,473 件	43,794 件

5 高齢者福祉事業の推進

(1) 宗像市在宅介護者支援事業(市委託事業)

■事業説明：在宅で家族の介護をしている介護者を対象に、より良い介護が継続できるよう介護に関する研修とリフレッシュ事業（介護者交流会）を行った。

実施事業	実施時期	主な活動内容
在宅介護者応援セミナー	令和 2 年 1 月 29 日	講 師:荒牧 陽子 氏(介護福祉士・メンタルトレーナー) 演 題:軽やかな心をつくる 7 つの秘訣 ～日々の介護に心が疲れてしまう人へ～ 場 所:メイトム宗像 202 会議室 参加者数:40 人
一泊リフレッシュセミナー	令和元年 10 月 29 日～30 日	訪問先:熊本県上天草市 宿泊先:松島観光ホテル(熊本県上天草市松島町合津 4710) 内 容:滞在型リフレッシュ事業 参加者数:22 人
一日リフレッシュセミナー	令和元年 6 月 4 日	訪問先:シャボン玉石けん工場(北九州市若松区南二島 2-23-1) 内 容:交流会型リフレッシュ事業 参加者数:16 人

(2) 在宅介護家族の会ひまわり活動助成支援

■事業説明：在宅で家族の介護をしている介護者で組織している「ひまわりの会」への活動支援及び資金支援などを行った。

■宗像市在宅介護家族の会“ひまわり”への活動費補助金の交付

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	155,000 円	155,000 円	155,000 円

(3) 宗像市シニアクラブ連合会と連携・支援（再掲）

■事業説明：宗像市シニアクラブ連合会と連携・協働して、小地域ネットワーク活動やいきいき介護予防交流会事業の推進、赤い羽根共同募金やその他多くの地域福祉活動を推進した。

■宗像市シニアクラブ連合会への活動費補助金の交付

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	512,000 円	512,000 円	512,000 円

(4) 鍼灸治療費補助事業

■事業説明：高齢者の健康維持のため、社会保険加入者を対象に鍼灸治療費の一部を補助。平成 20 年度から、後期高齢者医療被保険者についても市の委託事業として本会で一部補助を開始した。

■鍼・灸治療費の助成内容：一回につき 500 円、月 5 回まで

鍼灸延べ 利用件数	保険種別	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	社会保険被保険者	1,309 件	1,622 件	1,766 件
	後期高齢者医療被保険者	3,374 件	3,132 件	3,679 件

(5) 認知症サポーター養成講座事業及び認知症サポーター活動支援事業

1. 認知症サポーター養成事業

①認知症サポーター養成講座

■事業説明：平成 25 年度から宗像市より受託しているこの講座は、誰もが認知症について正しい知識を持ち、認知症の人やその家族の「尊厳ある暮らし」を守り、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して実施している。現在、市内には 1 万人以上のサポーターが誕生している。

■実施方法：本会職員が講師役「キャラバン・メイト」養成講座を受講し、学んだ知識や体験などを踏まえ、地域、学校、職場などで養成講座を開催している。

■事業実績

項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実施回数	42 回	36 回	39 回
受講者数	2,034 人	1,710 人	1,597 人

②認知症サポーターステップアップ研修会（認知症サポーターステップアップ講座）

■事業説明：平成 26 年度から宗像市より受託しているこの講座は、「認知症サポーター養成講座」を修了した人が培った知識を深め、地域や職域の実情に応じた取り組みを推進するための講座である。今年度は、認知症施策の動向と若年性認知症の現状と支援をテーマにして開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、延期（日時未定）した。

■事業実績

項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実施回数	1 回（4 日間）	1 回	延期
受講者数	29 人	44 人	—

開催予定日	場所	内容
令和 2 年 2 月 28 日（金） 3 月 6 日（金）	メイトム宗像 202 会議室	（テーマ）認知症の人と心を通わせる支援を目指して… （1 日目） ○認知症の症状と対応 ○介護者、支援者として望ましい接し方 （2 日目） ○若年性認知症の現状と支援 ○当事者と介護者共に望まれる支援を考える（グループワーク） （講 師） 福岡県若年性認知症サポートセンター 若年性認知症コーディネーター 中村 益子 氏

2. 認知症サポーター活動支援事業

①認知症地域支援推進員活動

■事業説明：認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、市町村ごとに、地域包括支援センター、市町村等に配置されている。医療機関・介護サービス事業所・地域の支援機関間の連携を図るための支援及び認知症の人やその家族を支援する相談業務等を担っている。

■研修関係

	日程	場所	研修名
1	8 月 22 日（木）・23 日（金）	福岡市	2019 年認知症地域支援推進員現任者研修
2	9 月 7 日（水）	福岡市	認知症サポーター活動促進「チームオレンジ」説明会
3	9 月 6 日（土）	宗像市	若年性認知症交流会
4	10 月 11 日（金）	福岡市	福岡県認知症初期集中支援チーム及び認知症地域支援推進員ネットワーク研修
5	令和 2 年 2 月 21 日（金）	福岡市	福岡県認知症サポーター等活動推進研修

■会議

(1) 認知症地域支援推進員会議（偶数月の第3火曜日に開催）

	日程	場所
1	4月16日（火）	宗像市役所 103 会議室
2	5月13日（月）※臨時	メイトム宗像 101 会議室
3	6月18日（火）	宗像市役所 201 会議室
4	7月30日（火）	宗像市役所 201 会議室
5	10月15日（火）	宗像市役所 204 会議室
6	12月17日（火）	宗像市役所 201 会議室
7	令和2年2月18日（火）	宗像市役所 201 会議室

(2) 地域ケア会議（各地域包括支援センターで開催）

	日程	場所
1	7月16日（火）	自由ヶ丘地域包括支援センター
2	7月19日（金）	玄海・池野・岬・大島地域包括支援センター
3	8月21日（水）	吉武・赤間・赤間西地域包括支援センター
4	9月6日（金）	南郷・東郷地域包括支援センター
5	9月10日（火）	河東地域包括支援センター
6	10月24日（木）	日の里地域包括支援センター

■その他

	日程	場所	内容
1	7月30日（火）	赤間区シニアクラブ連合会	オレンジカフェ実施について説明会
2	令和2年2月6日（木）	メイトム宗像 202 会議室	オレンジカフェ事業情報交換会
3	随時	メイトム内会議室	キャラバンメイト会議

②-1 オレンジ（認知症）カフェ

■事業説明：オレンジ（認知症）カフェとは、認知症の人やその家族、地域住民など誰もが集うことのできる場所である。認知症になっても認知症の人や家族が安心して地域で生活できるように、人や地域との繋がりを結ぶことや認知症について正しい知識の普及啓発を目的に開催している。この活動を推進するために、宗像市内においてカフェを実施・運営する団体と個人に対し、その事業費の一部を助成しており、助成制度やオレンジカフェ運営に関する手引き書を作成した。令和2年2月と3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、カフェ活動を中止した。

■実施方法：認知症に関する講話、レクリエーション、医療・介護・福祉分野の専門職による相談コーナーなどを設けている。

■相談協力団体：宗像市、宗像市内の地域包括支援センター

	日程	場所	参加数	実施団体	内容
1	4月27日（金） 10:00～正午	城西ヶ丘公民館	67 人	城西ヶ丘見守り ネットワーク むすび愛	・ピアノ伴奏にてみんなで歌おう ・認知症に関する講話（河東包括） ・ゲームとハンドマッサージコーナー
2	8月28日（水） 10:00～正午	障害者就労支援 丘の上の街	15 人	特定非営利活動法人 丘の上の街	・ゆっくり茶話会
3	10月1日（水） 10:00～正午	メイトム宗像 結工房	19 人	福祉ボランティア 花いちもんめ	・脳トレ、指体操 ・オカリナ演奏と歌 ・ゆっくり茶話会
4	11月7日（木） 10:00～正午	城西ヶ丘公民館	55 人	城西ヶ丘見守り ネットワーク むすび愛	・リコーダーアンサンブルと歌 ・花のブローチ作り ・ゲームとハンドマッサージコーナー
5	11月20日（水） 14:00～16:00	自由ヶ丘地区 コミュニティ	52 人	認知症サポーター 協議会	・ココロとカラダの健康体操 ・薬のワンポイント講話

		センター			・茶話会
6	令和2年 1月29日(水) 10:00～正午	南郷地区 コミュニティ センター	39人	福祉ボランティア 花いちもんめ	・脳トレ、指体操 ・オカリナ演奏と歌 ・パルーンアートで遊ぶ
7	2月26日(水) 13:00～15:00	自由ヶ丘第3区 公民館	中止	自由ヶ丘地区福祉会 自由ヶ丘第3区 サロン	・ハンドマッサージコーナー ・のんびり茶話会
8	3月4日(水) 10:00～正午	障害者就労支援 丘の上の街	中止	特定非営利活動法人 丘の上の街	・ゆつくり茶話会
9	3月19日(木) 14:00～16:00	宗像高等学校	中止	宗像高等学校	・ハンドベル ・ビンゴゲーム ・いっしょにお菓子作り

■開催協力オレンジカフェ

1	7月21日(日) 9:00～13:00	吉武地区 コミュニティ センター	(相談) 6件	吉武地区 コミュニティ 運営協議会	・茶話会 ・相談対応 ※選挙投票日に合わせて開催
2	11月17日(土) 14:00～16:00	蜂須賀病院	28人	蜂須賀病院	・季節の歌を歌おう ・転倒予防の講話 ・お正月の祝い箸袋を作ろう

②-2 オレンジカフェ情報交換会

■事業説明：オレンジカフェの実施運営主体は、市内で活動しているボランティア団体や事業所である。カフェ事業に取り組む中で、実施運営団体、認知症の人とその家族、市、本会が一同に会し、疑問点・改善点など様々な課題や気づき、意見交換、現状の把握など、情報と意見交換等を行うことを目的に、年1回開催している。

■出席者：認知症本人とその家族3組、宗像市在宅介護家族の会ひまわり、自由ヶ丘第3区会サロン、城西ヶ丘見守りネットワークむすび愛、福祉ボランティア花いちもんめ、蜂須賀病院、認知症サポート協議会、宗像高校、宗像市、宗像市内の地域包括支援センター

実施日時	場所	出席者数等
令和2年2月6日(木) 14:00～16:00	メイトム宗像 202会議室	19組、29人

③「本人ミーティング」に関する取り組み

■事業説明：認知症本人が自主的に集い、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのより良い暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場として、近年「本人ミーティング（通称）」が全国で広がり、本市でも試験的に本人と介護者を対象としたおしゃべりひろば「それでいい！」を月1回、4月から開催した(3月は新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い中止)。

	日程	場所	参加人数	内容
1	4月19日	福津市(あんずの里)	6組(11人)	懇親会
2	5月24日	メイトム宗像結工房	7組(13人)	おしゃべり会、歌、相談
3	6月15日	メイトム宗像結工房	7組(14人)	ランチ会、おしゃべり会、歌、相談
4	7月19日	メイトム宗像 101 会議室・多目的ホール	5組(12人)	卓球、おしゃべり会、歌、相談
5	8月16日	メイトム宗像結工房・健診室	5組(10人)	健康体操、おしゃべり会、歌、相談
6	9月20日	メイトム宗像結工房・多目的ホール	6組(12人)	卓球、おしゃべり会、歌、相談
7	10月18日	メイトム宗像結工房	8組(16人)	おしゃべり会、歌、相談
8	11月15日	メイトム宗像 101 会議室	9組(16人)	散策、おしゃべり会、歌、相談
9	12月20日	メイトム宗像結工房	7組(13人)	クリスマス会、歌、相談
10	令和2年1月17日	メイトム宗像結工房・多目的ホール	8組(14人)	音楽療法、おしゃべり会、歌、相談
11	2月21日	メイトム宗像 101 会議室	9組(16人)	音楽療法、おしゃべり会、歌、相談
12	3月13日	メイトム宗像結工房・健診室	—	中止

④RUN 伴（＋）2019 遠賀・宗像・古賀・新宮エリア実行委員会活動

■事業説明：日本全国のまちが、認知症になっても安心して暮らしていくことができる地域になることを目指して、認知症の人とともにタスキをつなぐ列島リレー「RUN 伴」が平成 23 年に始まり、宗像市は平成 27 年から参加している。

■実施方法：11 月 3 日に開催された「子どもまつり」において、「宗像ユリックス」内を参加者全員（70 人）でパレードを行い、理解啓発活動を行った。岡垣町から受け取ったタスキを福津市につないだ。

■参加協力：認知症本人とその家族、認知症サポーター、北筑前福祉会、久寿福祉会、さつき会、宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会、宗像市、宗像市内の地域包括支援センター

■会議

	日程	場所	内容
1	6 月 1 日(土)	宗像市役所 103 会議室	宗像市こどもまつり説明会
2	7 月 10 日(水)	岡垣町	RUN 伴＋2019 遠賀・宗像・古賀・新宮エリア実行委員会活動
3	7 月 13 日(土)	メイトム宗像多目的ホール	宗像市こどもまつり実行委員会
4	9 月 1 日(日)	宗像市役所 103 会議室	宗像市こどもまつり実行委員会
5	10 月 18 日(金)	宗像市役所 103 会議室	宗像市こどもまつり実行委員会
6	10 月 31 日(木)	メイトム宗像内会議室	RUN 伴＋2019 宗像エリアスタッフミーティング
7	11 月 1 日(金)	福津市役所	RUN 伴＋2019 遠賀・宗像・古賀・新宮エリア実行委員会活動
8	11 月 3 日(日)	メイトム宗像・宗像ユリックス	RUN 伴＋2019 遠賀・宗像・古賀・新宮エリア大会（参加者 70 人）
9	11 月 10 日(日)	宗像市役所 103 会議室	宗像市こどもまつり実行委員会反省会
10	令和 2 年 1 月 20 日(月)	東京都	RUN 伴＋2020 開催説明会

⑤その他

・「アクションミーティング」に関する取り組み

■事業説明：オレンジカフェと本人ミーティングに参加する認知症の人及びその家族の有志が集まり、認知症の人の視点を重視した地域づくりを具体的に進めていくいわゆる「アクションミーティング」を開催した。

	日程	場所	参加人数	内容
1	6 月 7 日（金）	メイトム宗像 103 会議室	4 組（8 人）	居場所作りについて
2	6 月 21 日（金）	メイトム宗像結工房	4 組（8 人）	居場所作り、仕組み作りについて
3	6 月 28 日（金）	メイトム宗像ボランティア Ce.	4 組（8 人）	居場所作りに向けて
4	7 月 12 日（金）	メイトム宗像ボランティア Ce.	4 組（6 人）	茶話会へ向けて
5	7 月 29 日（月）	メイトム宗像ボランティア Ce.	4 組（6 人）	茶話会へ向けて
6	8 月 21 日（水）	メイトム宗像ボランティア Ce.	4 組（6 人）	茶話会へ向けて
7	9 月 13 日（金）	メイトム宗像ボランティア Ce.	4 組（5 人）	茶話会準備
8	10 月 10 日（木）	市内	3 人	茶話会事前準備
9	10 月 19 日（土）	メイトム宗像 結工房	9 組（15 人）	オアシススポット「あん・のん・の」実施

・エーザイ・ジャパン株式会社（地域連携九州本部）との認知症理解普及活動協力連携

（6）配食サービス事業

■事業説明：主に玄海地区で、高齢者への「ふれあい型配食サービス事業」を実施しているボランティア団体へ助成を行った。

助成額	団体名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	浜ゆうの会	137,400 円	137,400 円	138,000 円
	じょうもんさん会	62,600 円	62,600 円	62,000 円

6 障がい児者福祉事業の推進

(1) 車イス貸与事業

■事業説明：高齢者及び障がいのある人などを対象に、一時的な車イスの貸出しを行った。

延べ利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	200 件	206 件	161 件

(2) 障がい児者福祉団体活動への支援

①宗像市あゆみの会活動への助成・支援

■内 容：宗像市あゆみの会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	225,000 円	225,000 円	225,000 円

②宗像市身体障害者福祉協会活動への助成・支援

■内 容：宗像市身体障害者福祉協会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	693,000 円	690,000 円	690,000 円

③あじさいの会活動への助成・支援

■内 容：障がいのある人とボランティアが協働で社会参加活動を行う「あじさいの会」へ、活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	80,000 円	80,000 円	80,000 円

④宗像コスモス会への助成

■内 容：精神に障がいのある人とその家族で構成する福祉団体コスモスの会へ、活動費補助金を交付。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	388,000 円	388,000 円	388,000 円

⑤パソコンクラブへの支援

■内 容：障がいのある人で構成される社会参加型のパソコンクラブ。本会の福祉教育読本とともに生きる感想文集のデジタル化（パソコン入力）を毎年行なっている。

委託金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	30,000 円	30,000 円	30,000 円

(3) 障がい者等への情報配信事業

①手話講習会事業

■事業説明：コミュニケーション方法のひとつ「手話」を学び、「聴覚障がい」と聴覚障がいや難聴の人の理解促進を図る事業。

■会 場：●火曜・土曜コース…メイトム宗像 ●金曜コース…玄海地区コミセン

■講習会日時：●火曜コース…19時から21時 ●金曜コース…13時30分から15時30分
●土曜コース…13時から15時

■運営委託：①手話サークル「シュワッチ」 ②玄海手話サークル「ゆび」

活動実績	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	回数	参加数	回数	参加数	回数	参加数
火曜	38 回	564 人	38 回	736 人	34 回	240 人
金曜	38 回	360 人	38 回	347 人	36 回	303 人
土曜	36 回	1,091 人	36 回	1,194 人	34 回	1073 人
合計	112 回	2,015 人	112 回	2,277 人	104 回	1,616 人

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、3月までの火曜4回、金曜3回、土曜3回を中止した。

②声の広報配布事業

■事業説明：視覚に障害のある市民へ市や地域の情報を届けるため、毎月2回宗像市広報「むなかたタウンプレス」（1日・15日号）等を音訳、デジタル録音したCD-Rやカセットテープ等を配布する事業。

■委託団体：日の里テープの会・日の里いずみの会・森林都市うぐいす

利用者数 (視覚障がい者)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	19人	16人	14人

③要約筆記ボランティア事業

■事業説明：聴覚・言語・音声機能などの障がいのために、意思疎通を図ることに支障のある人に対する要約筆記活動を軸にしたボランティア活動。本会が実施している福祉ボランティア養成講座「要約筆記ボランティアコース」の受講者を中心に結成された「暖歩（ダンボ）」が活動。

■活動内容

実施日	場 所	主な活動内容
適宜	メイトム宗像	学習会、講演会等での要約筆記協力 ●パソコン要約筆記学習 ●手書きによる要約筆記学習 ●ノートテイク活動

（４）おもちゃ図書館の運営

■事業説明：障がいのある人や子ども、高齢の人が「布のおもちゃ」などの療育遊具等で遊びながら療育を行うことができる施設を開設し、おもちゃの貸し出しも実施している。館の運営、布おもちゃの作成はボランティアに委託している。おもちゃの作成、貸し出し運営以外にも、「出張おもちゃ図書館」、グループ内学習として北九州おもちゃライブラリーへ視察研修に行き、スタッフの質の向上に取り組んだ。

広報紙「たんぽぽ通信」（年2回）を発行した。

■開館場所：メイトム宗像別館「居宅介護支援センター」1F

■開館日時：毎週木曜日14：00～17：00・第2・4土曜日14：00～16：00

■運営委託：宗像おもちゃライブラリー

活動実績	項目／年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	制作点数	23点	21点	10点
	貸出し件数	855件	757件	535件
	延べ利用入館者数	974人	811人	462人
	出張・臨時おもちゃ図書館	4回	2回	4回

■出張・臨時おもちゃ図書館：おもちゃ図書館に来所することが困難な団体などに対し、出張訪問などで対応する。

日程	訪問先	参加者数
令和元年7月24日	放課後等デイサービスみつは	30人
令和元年10月30日	東郷小学校（東郷小・南郷小・中央中交流会）	74人
令和元年12月20日	河東小学校	42人
令和2年1月14日	日の里西小学校（日の里西小・日の里東小交流会）	53人
合計	4回	199人

（５）車イス移送車貸出事業

■事業説明：高齢又は障がいのある車イスの利用者が、地域の行事への社会参加及び通院など、自由に外出できるよう車イス移送車を貸し出す事業。

活動実績	項目／年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	利用登録数	個 人	9人	16人	18人
		団 体	1団体	1団体	1団体
		スロープカー	14回	36回	33回

7 低所得者福祉事業の推進

(1) 生活福祉資金貸付事業（福岡県社会福祉協議会委託事業）の推進

①生活福祉資金貸付・償還事務の適切な実施

■事業説明：生活福祉資金は、低所得者の経済的自立や生活意欲の助長を促進し、安定した生活を営めるように資金を貸付する制度。平成 21 年度には、世界的長期経済金融情勢の悪化に伴い、失業者への総合的な支援に活用できる「総合支援資金」が新設された。資金の種類としては、高校・大学などへの進学及び高校卒業を支援する「教育支援資金」、生活保護受給までのつなぎとしての「緊急小口資金」などがある。また、令和 2 年 3 月下旬より一部貸付要件が緩和され、新型コロナウイルスの影響で収入減となった世帯への特例貸付も開始された。

	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
貸付実績	教育支援資金	24 件	29 件	19 件
	福祉費	3 件	5 件	1 件
	緊急小口資金	35 件	38 件	52 件
	臨時特例つなぎ資金	4 件	1 件	1 件
	総合支援資金	5 件	4 件	4 件
	合 計	71 件	77 件	77 件

②「生活困窮者支援制度」による支援事業との連携

■事業説明：支援調整会議（事務局：宗像市福祉課）に出席し、個別ケースについての情報共有を行うことで、「生活困窮者支援制度」と社会福祉協議会が行っている「生活福祉資金貸付事業」との連携を図った。

(2) 歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分

①歳末たすけあい募金配分委員会

■事業説明：集まった募金について、募金配分先や金額等を協議する会議。

実施日	場 所	主な内容
12 月 20 日	メイトム宗像 203 会議室	配分委員会において令和元年度募金実績額の報告及び募金配分計画等について協議・決定を行った。

②歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分

■事業説明：歳末たすけあい募金の実施に関して、宗像市民生委員児童委員協議会と協働して取り組んだ。

■実施内容：民生委員児童委員が商店や企業などを訪問して歳末募金活動を行い、生活困窮者、各福祉会及び福祉団体等へ募金を配分した。また、平成 29 年度からは、本会の教育支援資金の貸し付けを受け、現在高等学校等に在学中の生徒が属する世帯（生活保護世帯除く）に対しても、一人 10,000 円の配分を行っている。

■実施期間：11 月 1 日～12 月 31 日

活動実績	項目／年度		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	募金実績額		2, 293, 093 円	2, 237, 315 円	2, 187, 973 円
	配分金額	支援を必要とする世帯	600, 000 円	600, 000 円	630, 000 円
		※福祉団体等	614, 000 円	524, 000 円	524, 000 円
		地区福祉会	1, 079, 000 円	1, 108, 000 円	1, 025, 000 円
		共同募金へ繰入	93 円	5, 315 円	8, 973 円

※福祉団体等：子育てサロン・子育てサークル、福祉団体、ボランティアグループ

8 子育て子育ち・母子寡婦福祉支援事業の推進

(1) 子育て・子育ち支援事業の充実

①こねっと活動助成支援

■助成内容：子育て支援事業に取り組んでいる「NPO 法人むなかた子育てネットワークこねっと」への活動費補助金を平成 26 年度から交付。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	40,000 円	40,000 円	40,000 円

②子育てサロン及び子育て支援団体活動への助成支援

■事業説明：歳末たすけあい募金の中から、助成を希望する子育てサロン及び子育て支援団体へ活動資金の助成を行った。

※（ ）内の数字は助成団体数

補助金額	交付団体	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	子育てサロン	254,000 円 (9)	254,000 円 (9)	254,000 円 (9)
	子育て支援団体	150,000 円 (5)	120,000 円 (4)	90,000 円 (3)

(2) 地域福祉文庫連絡協議会活動助成支援

■事業説明：地域子どもたちに本の楽しさ、面白さを知ってもらうために、地域福祉文庫の設置を行った。現在では、4 文庫が活動を行っている。平成 18 年に、5 つの文庫で構成する連絡協議会を設立した。

■活動内容：各文庫間の情報交換、絵本の素晴らしさや絵本を通じた親子のふれあいの大切さなどを伝えるための活動を支援。また、各文庫活動の質の向上を図るため、会員研修会の実施を支援した。

実施事業	実施時期	主な活動内容
講演会	10 月 28 日	場 所：メイトム宗像 202 会議室 演 題：“本ってほんとにおもしろい”～本をとおして子どもとふれあおう～ 講 師：九州女子大学・福岡女子短期大学 非常勤講師 鈴木 研 氏

■助成内容：宗像市地域福祉文庫連絡協議会への活動費補助金の交付及び活動支援。

補助金交付額	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	215,000 円	235,000 円	235,000 円

(3) 宗像市母子寡婦福祉会活動助成支援

■事業説明：母子家庭の母親の就労支援及び子育て支援、福祉の向上を図るため、宗像市母子寡婦福祉会の活動支援と協力を実施。

■活動内容：宗像市母子寡婦福祉会へ活動補助金の交付、事業の活動支援等を行った。

■活動支援の内容

実施時期	実施事業	主な活動内容
9 月 29 日	一日バスハイクへの支援	訪問先：福岡市内 参加者：27 人 支援内容：事業に関する連絡調整や参加者の募集・集約、事業の進行や安全管理等について協力した。
7 月・12 月	交流会・サロン活動等の支援	実施回数：2 回 延べ参加者：26 人 支援内容：会員親子の交流と新規会員確保のため、クリスマス会等の実施協力及び会員募集チラシの作成等の協力を行った。

9 福祉教育の推進

(1) 福祉教育推進校（園）指定事業の実施

①福祉教育推進校（園）の指定

■事業説明：平成 18 年度から福祉教育推進計画に基づいた「福祉教育推進事業実施要綱」により、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を対象に「推進校」を指定し、子どもへの福祉教育を実施した。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
指定校（園）数	■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2 園 ②保育園（推薦園）2 園 ③小学校 15 校 ④中学校 7 校 ⑤高 校 2 校 【計：28 校・園】	■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2 園 ②保育園（推薦園）2 園 ③小学校 15 校 ④中学校 7 校 ⑤高 校 2 校 【計：28 校・園】	■福祉教育推進校 ①幼稚園（推薦園）2 園 ②保育園（推薦園）2 園 ③小学校 15 校 ④中学校 7 校 ⑤高 校 2 校 【計：28 校・園】

②福祉教育推進校（園）への福祉体験学習等の支援

■事業説明：福祉教育推進校（園）が実施する福祉体験学習等の実施を支援した。

■実施校数：小学校 14 校 + 中学校 2 校 + 高校 2 校

■支援回数：小学校 102 回（日）+中学校 2 回（日）+高校 18 回

	学校/学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	職員	計
対象者数	小学校	41 人	47 人	530 人	874 人	548 人	206 人		2,246 人
	中学校	80 人	0 人	115 人					195 人
	高 校	380 人	300 人	0 人				5 人	685 人
	令和元年度 合計								3,126 人
	平成 30 年度 合計								3,286 人
	平成 29 年度 合計								3,620 人

■主な支援内容

学校名	対象者	主な活動内容
吉武小学校	3 年生 (28 人)	■実施日：1 月 31 日、2 月 4 日・21 日 ■主な協力者：手話サークル「シュワッチ」、聴覚障がい者 ■主な内容：モコ体験（聞こえない世界についての学習）、「伝えること」についてのお話、聴覚障がい者との交流、手話体験、感謝の会
	4 年生 (25 人)	■実施日：11 月 13 日・20 日・29 日 ■主な協力者：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容：ガイド・アイマスク体験、点字体験、視覚障がい者との交流
	5 年生 (21 人)	■実施日：6 月 19 日・20 日 ■主な協力者：車いす利用者 ■主な内容：車いす体験、車いす利用者との交流会
赤間小学校	4 年生 (161 人)	■実施日：6 月 17 日・18 日・24 日・25 日・26 日 ■主な協力者：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」、保護者 ■主な内容：ガイド・アイマスク体験、点字体験、視覚障がい者との交流
	5 年生 (157 人)	■実施日：9 月 30 日、10 月 9 日・21 日・24 日・25 日、12 月 4 日 ■主な協力者：赤間地区シニアクラブ、保護者 ■主な内容：赤間地区の現状・高齢者の生活についての講話、高齢者との交流活動①②、高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座

自由ヶ丘小学校	3年生 (83人)	■実施日 ：10月21、30日 ■主な協力者 ：手話サークル「シュワッチ」、聴覚障がい者 ■主な内容 ：聴覚障がい者との交流会/「聞こえない・聞こえづらいということ」、聴覚障害の方への伝える方法についてのお話・聴覚障がい者との交流・質疑応答・手話体験(グループ学習)
	4年生 (87人)	■実施日 ：11月15、18、26日、12月11日 ■主な協力者 ：ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」、視覚障がい者1人 ■主な内容 ：導入学習・(児童・保護者)アイマスク体験(各1回)・点字体験(1回)・視覚障がい者との交流(2回)
	5年生 (99人)	■実施日 ：10月4、7、9、17、29日、11月13、28日、12月2日 ■主な協力者 ：自由ヶ丘地区福祉会役員と福祉委員、高齢者の会、保護者 ■主な内容 ：導入学習/宗像市や自由ヶ丘地区の現状について学ぶ・高齢者疑似体験・自由ヶ丘地区福祉会の役割や活動について知る・認知症サポーター養成研修・えがおの会への参加・高齢者との交流活動
自由ヶ丘南小学校	3年生 (59人)	■実施日 ：10月15、31日 ■主な協力者 ：手話サークル「シュワッチ」、聴覚障がい者 ■主な内容 ：導入学習・出会いの交流会・「聞こえない・聞こえづらいということ」、聴覚障害の方へ伝える方法についてのお話・聴覚障がい者との交流・手話体験(グループ学習)
	4年生 (60人)	■実施日 ：1月28日、2月3、4日 ■主な協力者 ：ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」、視覚障がい者2人 ■主な内容 ：導入学習・(児童・保護者)アイマスク体験(各1回)・点字体験(2回)・視覚障がい者との交流(1回)
	5年生 (62人)	■実施日 ：10月3、10、17、28日、11月6日、12月10日 ■主な協力者 ：自由ヶ丘地区福祉会役員と福祉委員、高齢者の会、保護者 ■主な内容 ：導入学習/宗像市や自由ヶ丘地区の現状について学ぶ・高齢者疑似体験・自由ヶ丘地区福祉会の役割や活動について知る・認知症サポーター養成研修・学習発表・高齢者の会との交流会
赤間西小学校	3年生 (67人)	■実施日 ：10月3日・10日(最終回2/27はコロナ影響で中止) ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：モコ体験ゲーム(簡易版)伝える方法について・手話を使って歌をうたおう・聴覚障害者との交流・手話学習、(ふれあい学習発表会は中止)
	4年生 (74人)	■実施日 ：9月24日・25日 ■主な協力者 ：ガイドボランティア「アイフレンド」、視覚障がい者、保護者 ■主な内容 ：視覚障がい者との交流会・アイマスク・ガイド体験学習
	6年生 (63人)	■実施日 ：9月9日、10月10日・11日・15日・18日・28日、11月26日 ■主な協力者 ：赤間西地区福祉会役員、地区内小地域福祉会役員、地域ボランティア、自治会、民生委員児童委員 ■主な内容 ：赤間西地区の現状・高齢化に関する講話・高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座・高齢者(サロンやサークル活動)への取材訪問・給食交流会・体育館でのグループ交流会

東郷小学校	3年生 (113人)	■実施日 ：10月28日、11月7、29日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：聴覚障がい者との交流・手話で歌おう・手話体験・学習発表会
	4年生 (109人)	■実施日 ：10月18、29日、11月5、22日 ■主な協力者 ：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容 ：アイマスク・ガイド体験（児童及び保護者）点訳体験・視覚障がい者との交流会・学習発表会
南郷小学校	1年生 (41人)	■実施日 ：2月14日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：聴覚障がい者との交流・手話体験・手話で歌おう
	2年生 (47人)	■実施日 ：2月14日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：聴覚障がい者との交流・手話体験・手話で歌おう・グループ別学習
	6年生 (34人)	■実施日 ：2月10日 ■主な内容 ：高齢者疑似体験
日の里西小学校	3年生 (61人)	■実施日 ：9月17日、・10月1日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：導入学習・出会いの交流会・「聞こえない・聞こえづらいということ」・聴覚障害の方への伝える方法についてのお話・聴覚障がい者との交流・手話体験(グループ学習)
	4年生 (56人)	■実施日 ：9月12日、18日、10月1日、3、15日 ■主な協力者 ：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容 ：導入学習・視覚障がい者との交流会・アイマスク体験（保護者・教職員・児童/各1回）・点字体験(1回)・学習したことの報告・交流会
	5年生 (69人)	■実施日 ：6月12日、17日、19日、24日、27日 ■主な協力者 ：日の里地区福祉会役員、保護者 ■主な内容 ：導入学習/宗像市や日の里地区の現状について学ぶ・高齢者疑似体験・日の里地区福祉会の役割や活動について知る・認知症サポーター養成研修・私たちが住んでいる地域(日の里)の福祉活動について学ぼう/福祉会へのインタビュー
日の里東小学校	3年生 (43人)	■実施日 ：10月18日、25日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：導入学習・出会いの交流会・「聞こえない・聞こえづらいということ」・聴覚障害の方への伝える方法についてのお話・聴覚障がい者との交流・手話体験(グループ学習)・4グループに分かれて聴覚障害者・ボランティアに対して質疑応答
	4年生 (47人)	■実施日 ：11月18日、29日、12月3日、5日、19日 ■主な協力者 ：視覚障がい者、ガイドボランティア「アイフレンド」、点訳ボランティア「てんとうむし」 ■主な内容 ：導入学習・視覚障がい者との交流会(2回)・アイマスク体験(保護者・教職員・児童)1回・点字体験(1回)・学習したことの報告・交流会
河東小学校	3年生 (136人)	■実施日 ：9月6日・26日 ■主な協力者 ：聴覚障がい者、手話サークル「シュワッチ」 ■主な内容 ：聴覚障がい者との交流（テーマ別交流）・手話体験等・河東っ子まつりへシュワッチを招待/学んだことの発表
	4年生	■実施日 ：9月30日、10月2日・4日・9日・10日、11月19日

	(133 人)	■主な協力者： 視覚障がい者、点訳ボランティア「てんとうむし」、ガイドボランティア「アイフレンド」 ■主な内容： アイマスク・ガイド体験（保護者・児童・教員）・点訳体験・視覚障がい者との交流会（2回）
	5 年生 (137 人)	■実施日： 6 月 10 日・14 日・24 日 ■主な協力者： 車いす利用者、保護者 ■主な内容： 車いす体験、車いす利用者との交流会
	6 年生 (107 人)	■実施日： 6 月 12 日・19 日、7 月 4 日 ■主な協力者： 河東地区内の福祉会、河東地区内の見守り活動団体、民生委員児童委員、保護者、地域の高齢者 ■主な内容： 河東地区の現状・高齢化に関する講話、高齢者疑似体験、ふれあい交流会、河東っ子まつりへの招待
河東西小学校	4 年生 (100 人)	■実施日： 9 月 19 日・24 日、10 月 7 日・29 日 ■主な協力者： 視覚障がい者、点訳ボランティア「てんとうむし」、ガイドボランティア「アイフレンド」 ■主な内容： アイマスク・ガイド体験・点訳体験・視覚障がい者との交流会（2回）
玄海小学校	4 年生 (10 人)	■実施日： 2 月 25 日 ■主な協力者： ガイドボランティア「アイフレンド」 ■主な内容： アイマスク・ガイド体験 ※新型コロナウイルスの感染拡大予防対策に伴い、一部中止。
地島小学校	3～6 年生 (8 人)	■実施日： 5 月 30 日 ■主な協力者： 島民 ■主な内容： 高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座
	4 年生 (2 人)	■実施日： 11 月 6 日 ■主な協力者： 車いす利用者、島民 ■主な内容： 車いす体験・車いす利用者との交流会
大島学園 (前期課程)	4 年生 (10 人)	■実施日： 11 月 18 日・25 日 ■主な協力者： 点訳ボランティア「ねむの会」、視覚障がい者 ■主な内容： 点訳体験・アイマスクガイド体験・視覚障がい者との交流会
中央中学校	3 年生 (115 人)	■実施日： 12 月 6 日 ■主な内容： 認知症サポーター養成講座
宗像中学校	1 年生 (80 人)	■実施日： 6 月 12 日 ■主な内容： 認知症サポーター養成講座
東海大学付属 福岡高等学校	1 年生 (380 人)	高校生ボランティアスクールのページを参照
宗像高等学校	2 年生 (300 人)	高校生ボランティアスクールのページを参照

③福祉教育推進校連絡会の実施

■事業説明：「福祉教育推進事業実施要綱」により、指定を受けた保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校で構成する福祉教育推進校（園）連絡会を 2 回開催した。

実施事業	実施日時	主な内容
第 1 回連絡会	■令和元年 6 月 27 日 ■メイトム宗像 202 会議室	① 福祉体験学習のご案内 →福祉教育の申込等について ② 各校（園）の福祉教育の取り組みについての報告 ③ 宗像市福祉教育セミナーの開催案内 ④ 福祉教育読本「ともに生きる」の活用依頼 ⑤ 福祉絵画コンクールの協力依頼 ⑥ ジュニアボランティアスクール開催案内 ⑦ 認知症サポーター養成講座について ⑧ 出張おもちゃ図書館について ⑨その他
第 2 回連絡会	■令和 2 年 2 月 12 日	① 福祉教育推進事業に係る報告書類の事務手続きについて ②福祉絵画コンクールおよび福祉教育読本「ともに生きる」感

	■メイトム宗像 202 会議室	想文の作品集『ともだち』の配布 ③福祉・介護教室のご提案 ④認知症サポーター活動支援事業について ⑤その他
--	--------------------	---

④福祉教育読本「ともに生きる」の配布と活用の推進

- 事業説明：市内の小学 5 年生を対象に福祉読本「ともに生きる」を配布し、読后感想文を募集して、優秀な感想文を表彰した。優秀な作品は「市民活動交流館まつり」当日のメインステージで表彰した。また、作品集「ともだち」を作成し、本会ホームページにて公開した。
- 活動内容：市子どもまつり(宗像ユリックス)会場に入賞作品を展示するとともに、表彰式を開催し、記念品及び参加賞を贈呈した。
- 対象児童：市内全小学校 5 年生
- 活用冊数：927 冊（全 5 年児童）
- 応募数：86 作品（30 クラス）
- 表彰日：11 月 3 日「第 18 回宗像市子どもまつり（宗像ユリックス）」
- 作品展示：11 月 5 日～11 月 11 日 メイトム宗像 1 階 健診室廊下側壁面
- 作品集発行：作品集「ともだち」配付先 全受賞児童、市内の保育園・幼稚園、小・中・高等学校および市教育長、市民図書館等、計 122 部

⑤福祉絵画コンクールの開催

- 事業説明：福祉教育推進校（園）等の子どもたちとその保護者に、福祉への関心を高めてもらうため「思いやり・優しさ」をテーマに絵画コンクールを実施。
- 活動内容：市子どもまつり会場(ユリックス)にて入賞作品を展示するとともに、表彰式を開催し、記念品及び参加賞を贈呈した。
- 応募対象：市内全保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の児童生徒
- 表彰期日：11 月 3 日「第 18 回宗像市子どもまつり（宗像ユリックス）」
- 作品集発行：作品集「ともだち」配付先 全受賞児童、市内の保育園・幼稚園、小・中・高等学校及び市教育長、市民図書館等、計 122 部

参加作品総数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	496 作品	622 作品	579 作品

（２）地域福祉推進事業所職員研修協力事業

- 事業説明：地域の事業所が、「ノーマライゼーション」「ボランティア」「地域福祉」「認知症」「見えにくい障がい」等の要素を付加した職員研修を行う場合に、福祉教育の観点から「地域福祉推進事業所」として研修を支援した。

実施事業	実施日時	主な内容
認知症サポーター養成講座	4 月 22 日	内 容:認知症サポーター養成講座 参加者:24 人(宗像市高齢者支援課及び市内の地域包括支援センターの職員) 場 所:宗像市役所内会議室
認知症サポーター養成講座	8 月 1 日	内 容:認知症サポーター養成講座 参加者:50 人(宗像医師会病院職員) 場 所:宗像医師会館講堂
認知症サポーター養成講座	8 月 27 日	内 容:認知症サポーター養成講座 参加者:14 人(福岡銀行赤間支店職員) 場 所:福岡銀行赤間支店内会議室
2019 年度福祉研修 宗像市初任層職務支援研修	11 月 19 日	内 容:「障がい」への理解とノーマライゼーション、技術講習等 ○身体、知的、精神、(発達)障がいなどに関する知識や障害模擬体験、窓口対応等の具体的コミュニケーション方法等について ○ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョン、障害者差別解消法の概念などについて 参加者:23 人(宗像市入庁後、1・2 年目の職員) 場 所:メイトム宗像 202 会議室

(3) 社会福祉援助技術現場実習生の受け入れ

- 事業説明：将来、社会福祉の専門職又は専門資格を取得することを目的として、社会福祉の現場（本会）で実習を希望する者の受け入れを福祉教育の一環として行った。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実習生 受入実績	■西九州大学 1 人 期間:8 月 16 日～9 月 21 日 (実質 24 日間) ■西南学院大学 1 人 期間:8 月 16 日～9 月 21 日 (実質 24 日間)	■筑紫女学園大学 1 人 期間:8 月 16 日～9 月 19 日 (実質 24 日間) ■筑紫女学園大学 1 人 期間:2 月 26 日～3 月 19 日 (実質 16 日間)	■筑紫女学園大学 1 人 期間:8 月 16 日～9 月 19 日 (実質 24 日間)

(4) 第 15 回宗像市福祉教育セミナーの開催

- 事業説明：福祉教育推進校（園）の教職員及び地域福祉の推進に関わる人に、福祉教育への理解と地域福祉への参画を推進するため、平成 17 年から標記セミナーを開催している。
- 事業内容：第 15 回の福祉教育セミナーのテーマは、「地域で自分らしく生きる～障がいとともに～」。重度口唇口蓋裂・難病 高安動脈炎の経験談に基づいて、地域で障がいや難病を抱える人々が自分らしく安心して過ごせるまちづくりについて改めて考える機会となり、地域・学校で協働実践していく福祉教育の必要性について理解を深める機会となった。
- 実施期日：令和元年 8 月 1 日（木） 10:00～12:00
- 実施場所：メイトム宗像 多目的ホール
- 実施内容

項 目	主な内容
講 演	演題:「地域で自分らしく生きる～障がいとともに～」 講師:菊武 由美子 氏

- 参加者数：

参加者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	225 人	192 人	187 人

(5) ワクワク WORK の受け入れ

- 令和元年度は、受け入れ無し。

10 活動財源の確保

(1) チャリティボウリング大会

- 事業説明：健康づくりとチャリティを目的に開催しているボウリング大会。市内外の地域福祉推進事業所等及び市民の善意によって支えられている。
- 期 日：2 月 21 日（金）
- 会 場：宗像シティボウル（王丸）
- 協賛等：市内外の多くの事業所から、賞品・資金の提供、宣伝活動、参加協力等を受けている。

	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
事業実績	参加者	117 人	112 人	113 人
	益金額	301,049 円	296,549 円	254,900 円

(2) 共同募金・宗像市社協自動販売機の設置

- 事業説明：社協自動販売機で飲料水等を購入した場合に、本会等に寄付が行われる「寄付つき商品型自動販売機」の設置を推進した。

■設置状況：設置台数 計 17 台

実績額	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	手数料収入	774, 899 円	806, 091 円	733, 348 円

(3) 香典返し・一般寄付等の高額寄付者への感謝状の贈呈と初盆参りの実施

■事業説明：香典返しの寄付と一般の寄付などの受け入れを行った。30,000 円以上の寄付者に感謝状を贈呈し、50,000 円以上の場合は初盆参りを実施した。

事業実績	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	感謝状贈呈数	32 件	27 件	24 件
	香典返寄付金	115 件 (2, 745, 000 円)	106 件 (2, 698, 027 円)	75 件 (1, 550, 000 円)
	一般寄付金	8 件 (1, 369, 459 円)	8 件 (365, 066 円)	9 件 (586, 579 円)
	計	123 件 (4, 114, 459 円)	114 件 (3, 063, 093 円)	84 件 (2, 136, 579 円)

(4) ファンドレイジング（資金調達）に関する事業の実施

①福祉機器貸出の有料化

■貸与品：車イス（自走式・介助式）

■対象者：高齢者及び傷病者の介護など、一時的に車イスを必要とする人

■料金等：運営協力費として 1 回 500 円

■期 間：1～30 日間（原則として 1 回 1 ヶ月以内。ただし、更新 2 回まで可）

■事業説明：高齢者及び障がいのある人などを対象に、一時的な車イスの貸し出しを行った。

事業実績	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	延べ利用件数	200 件	206 件	161 件
	運営協力費	100, 000 円	103, 000 円	80, 500 円

②イオングループ黄色いレシート活動への参加

■内 容：イオングループ黄色いレシート活動に参加。イオンモール福津の買い物客が黄色いレシートを投票した金額の 1%相当額の現物寄附を受けた。

年 度		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
寄附の内容	総計額	615, 256 円	106, 813 円	1, 303, 294
	寄付金額	6, 200 円	10, 800 円	13, 000

11 ボランティア活動・市民活動の促進

(1) ボランティアセンター事業の適切な運営

① ボランティア登録事業の促進及び V-net の効果的運営

ボランティア登録事業実績		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
ボランティア登録	提供個人	19 件	21 件	28 件
	提供団体	1 件	5 件	1 件
	依頼個人	3 件	0 件	3 件
	依頼団体	3 件	12 件	8 件
	依頼申込個人	66 件	130 件	133 件
	依頼申込団体	51 件	60 件	56 件
ボランティア活動状況	件 数	404 件	420 件	399 件
	活動人数	2, 003 人	1, 960 人	1, 672 人
	調整数	483 件	580 件	788 件
HP アクセス数	アクセス件数	2, 075 件	1, 672 件	2, 772 件
センター利用状況	窓 口	2, 027 件	2, 034 件	1, 572 件

	電 話	1,565 件	1,679 件	1,725 件
	合 計	3,592 件	3,713 件	3,297 件
	対前年比	107%	103%	89%

■ ボランティア活動分野別登録状況

	福祉	保健 医療	環境	観光	国際 交流	まちづ くり	子ども	学習	合計
個人 (人)	491 38.8%	80 6.3%	115 9.1%	119 9.4%	77 6.1%	93 7.3%	186 14.7%	106 8.4%	1,267 100%
団体 (団体)	64 55.1%	6 5.2%	11 9.5%	4 3.4%	3 2.6%	7 6.0%	11 9.5%	10 8.6%	116 100%

※ボランティア活動分野別登録状況は、V-net 開設時（平成 14 年 3 月）からの累計。

②宗像市市民活動交流館の企画運営への協力

■事業説明：NPO、ボランティア団体への活動支援・協働のため、市民活動交流館の運営などについての協議及び検討を適宜行うメイトム会議に参加している。

■実 施 日：適宜

（２）ボランティア講座の開催

①ボランティア入門講座

■事業説明：ボランティア活動を始めたい人、始めて間もない人、ボランティア活動及びこの講座に関心のある人を対象に開催した。

■事業内容：全国に展開する子ども食堂を運営する“子ども食堂ボランティア”に視点を当て、宗像で寺子屋子ども食堂を実施する「母活クラブ MANA（マナ）」の代表を講師に招き、ボランティアの意義と目指す姿勢について学んだ。

今回は、体験学習として寺子屋子ども食堂を実施した。準備から受け入れまでを実体験することによって、子どもたちとの触れ合い・地域の方との関わりを通したボランティア活動の喜び・楽しさを体感してもらった。また、募集中のボランティア活動及びボランティアネットワークについての紹介を行い、活動参加への幅広い選択の機会とした。

■実施期日：11 月 24 日（日）

■実施場所：自由ヶ丘地区コミュニティ・センター

■講 師：母活クラブ MANA 久藤 さち 氏

参加者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	6 人	20 人	13 人

②ジュニアボランティアスクール

■事業説明：福祉教育推進計画に基づき、小学生・中学生対象の福祉教育拡大・発展型のボランティア体験学習を実施している。今年度は、低学年（バンビコース：小学 1～3 年とその保護者）と高学年（ピッコラコース：小学 4 年から中学 1 年）の 2 コースを設けた。

参加者数	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	バンビ	10 組	バンビ	5 組	バンビ	9 組
	ピッコラ	10 人	ピッコラ	5 人	ピッコラ	20 人

（１）バンビコース（低学年）

■事業内容：バンビコースは、子どもと保護者が一緒に参加する体験学習型のスクールである。今回は、「環境」をテーマに北九州環境ミュージアムを訪ね、エコハウスの見学、海と大気汚染状況、資源ごみのリサイクル方法等について、体験活動を交えて学習した。修了後、参加者（子どものみ）全員を「こども福祉員（通称：バンビ）」に任命した。

■実施場所：北九州環境ミュージアム

実施時期	内 容
8 月 25 日（日）	☐ オリエンテーション ☐ フィールドワーク

	・北九州エコハウス見学 ・クイズを解きながら施設探検 ・体験コーナーでエコ学習 ・エコ体験（段ボールコマ作り） ・環境学習サポーターとの質問コーナー
--	--

(2) ピッコラコース

■事業説明：ピッコラコースは「福祉（高齢者）」「まちづくり」「環境」をテーマに体験スクールを開催。高齢者と認知症について詳しく学び、実際に高齢者施設に赴き、ボランティア体験交流会を実施した。フィールドワークでは、まちの安全を守る様々な取り組み、実生活でできる環境保全の取り組みを学習した。3日間行程のスクールで、「安全で暮らしやすいまちづくりの一員として自分ができること」を考え、これから実行していく機会となった。修了後、参加者全員を「こども福祉員（通称：ピッコラ）」に任命した。

■実施場所：メイトム宗像、福岡県警察本部、臨海 3R ステーション、特別養護老人ホームむなかた

実施時期	内 容
8月7日(水)	☐ アイスブレイク（レクリエーション自己紹介） ☐ 高齢者についての学習①（高齢者擬似体験） ☐ 認知症について学ぼう（認知症サポーター養成講座） ☐ 高齢者についての学習②（車いす体験） ☐ ふりかえり学習
8月8日(木)	☐ フィールドワーク～まちづくり編～（訪問先：福岡県警本部） ・福岡県警察資料室見学 ・通信指令室見学 ・交通管制センター見学 ・警察ビデオ視聴、質問コーナー ☐ フィールドワーク～環境編～（訪問先：臨海 3R ステーション） ・焼却施設「臨海工場」見学 ・ワークショップ（紙すきハガキづくり） ☐ ふりかえり学習
8月9日(金)	☐ ボランティア体験学習～交流会に向けて～ ・活動中の心構え、気をつける事を学ぶ ・プレゼント作り ☐ ボランティア体験学習～ボランティア体験交流会～ ・はじまりの挨拶 ・一緒に書道をしよう ・紙すきハガキの手紙プレゼント （協力：書道を教えるボランティア 訪問先：特別養護老人ホーム） ☐ グループワーク ・ジュニボラプレスづくり、発表 ☐ ふりかえり学習 ☐ 子ども福祉員任命式

③高校生ボランティアスクール

■事業説明：福祉教育推進計画に基づいた「福祉教育推進事業実施要綱」により、市内にある2つの高等学校を「推進校」に指定し、福祉教育を推進・強化している。各高校の生徒及び教職員を対象にしたボランティアスクールで、今できるボランティア活動や将来経験を重ねて取り組む場合の予備知識となるような学習を実施した。

■事業内容：

- ・今年度もノーマライゼーションの理念に基づく「共生」をテーマに、地域社会の課題を「自分たちの問題」としてとらえる内容の学習を実施した。
- ・宗像高等学校では、教育課程「家庭基礎」の単元で「高齢者」について学んだ2年生を対象に、5日間にわたっての認知症に対する理解を深める学習を実施した。
- ・東海大学付属福岡高等学校では、現代社会の様々な時事を取り上げている「現代文明論」の単元にて、社会課題のひとつ「認知症」について理解を深める学習を実施した。全1年生が5日間にわたって、「認知症サポーター養成講座」を受講した。

	項目／年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
参加者数	東海大学付属福岡高等学校	380 人	388 人	380 人
	宗像高等学校	312 人	305 人	300 人

【東海大学付属福岡高等学校】

実施時期	実施場所	内容
9/24～27 10/3	東海大学付属 福岡高等学校	□現代社会論 ●認知症について学ぼう（認知症サポーター養成講座） （講師：宗像市社会福祉協議会職員）

【宗像高等学校】

実施時期	実施場所	内容
7/5・8～11	宗像高等学校	□高齢者理解の学習 ●認知症について学ぼう（認知症サポーター養成講座） （講師：宗像市社会福祉協議会職員）

④福祉ボランティア養成講座

■事業説明：ボランティア活動を始めたい、またはすでに活動しているが他のボランティア活動も興味がある市内在住者などを対象に開催するもの。

■事業内容：支援する相手や仲間の心に寄り添ったボランティア活動ができるようになることを目指し、ボランティア活動の基礎になる「傾聴」と「コミュニケーション力」に関する基礎学習とともに、今回は特に視覚障がいのある人が社会参加を実現するために欠かせない外出支援ボランティア活動の学習を取り入れた。視覚障がいにより移動が困難な人に対する外出時の同行による移動支援や代読、排せつ、食事の介助など外出に必要な支援方法、支援時に必要な心構えを習得する内容を企画した。
今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い中止した。

■実施期日：3月3・10・17日（合計3日間）

実施時期	実施場所	内容
3月3日 （中止）	メイトム宗像	□ボランティア活動時に必要なコミュニケーション方法 講師：(特活)日本ソーシャルコーチ協会代表理事 富岡 郁雄 氏
3月10日 （中止）	福岡県 地域介護実習 普及センター （中間市）	□対人援助支援ボランティア体験学習① ●みんなで支え合う幸せ！～受援者の気持ち、支援のポイント～ ●高齢者疑似体験 ●車いす体験 ●音楽レクリエーション ●支援のポイント 講師：福岡県地域介護実習普及センター職員
3月17日 （中止）	メイトム宗像 及び市内	□対人援助ボランティア体験学習② ●視覚障がいについて ●外出支援の仕方ー基本と応用 ※公共交通機関を利用してガイド体験、買い物体験 ●視覚障がいのある人との交流 講師：外出支援ボランティア アイフレンド 協力者：入江 ひろみ 氏、三輪 あけみ 氏

■参加者数：

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
参加者数	19 人	中止	中止（申込者数 17 人）

（３）ボランティア活動との連携・支援強化

①福祉ボランティア活動連絡協議会の育成・補助

■事業説明：福祉ボランティア活動連絡協議会の役員会・運営委員会への参加・助言。自主研修会、総会などについて助言・指導。各ボランティアグループへの個別指導・助言。福祉教育現場での参加支援。行政や各施設で行われるイベントへの参加支援。
現在、11 団体が所属している。

■活動支援の内容

実施事業	実施時期	主な活動内容
運営推進委員会	毎月2回開催	※毎月最終週のいずれか平日：午後6時30分～
連絡会	毎月1回開催	※毎月第1水曜：午後2時～
定期総会	4月20日	場 所：メイトム宗像
全体研修①	11月22日	場 所：芦屋町 テーマ：芦屋町ボランティア連絡協議会（手をつなぐリボンの会）との交流研修 訪問地：1. 芦屋町中央公民館 2. 芦屋釜乃里
全体研修②	令和2年 1月24日	場 所：メイトム宗像 テーマ：ミニ講習会と会員交流会 ①ボランティア「始め」の「初め」 ～パネルディスカッションとグループ討議、発表～ ②交流会「バルーンアートに挑戦！」
広報活動	4月と9月	ボラ連だより「あ・し・た」の発行

■宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会へ活動費補助金の交付及び活動支援

補助金交付額	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	510,000円	510,000円	510,000円

②ふくおか「きずな」フェスティバルへの参加・協力

■事業説明：県内で開催されるボランティア等のフェスティバル。現在は、「ふくおかボランティアのつどい」と「ふくおか子どもすくすくフェスタ」を統合し、ふくおか「きずな」フェスティバルとして開催されている。

■事業内容：ふくおか「きずな」フェスティバルに参加

□講演：子どもの貧困と居場所づくり

講 師：大西 良 氏（筑紫女学園大学人間科学部 准教授）

□ボランティア活動別分科会

■実施期日：令和2年2月16日

■実施場所：クローバープラザ（春日市）

■参加者数：福祉ボランティア活動連絡協議会員22人

③ボランティア活動振興基金積立事業

■事業説明：福祉ボランティア活動振興基金の基金果実を福祉ボランティア活動連絡協議会に助成した。

実績額	項目／年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	基金果実	2,810円	6,424円	704円
	助成金額	10,000円	10,000円	10,000円

④ボランティア保険加入補助

■事業説明：V-netに登録している個人、団体ボランティア、福祉会のボランティアなどがボランティア活動保険に加入した際に、その保険料一人当たり175円を補助した。

合計補助金額	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	242,500円	255,000円	315,000円

※平成28年度までは、保険料一人当たり150円を補助。

12 赤い羽根共同募金運動への協力

(1) 共同募金への協力

■組織体制

福岡県共同募金会の支部組織「福岡県共同募金会宗像市支会」として、理事会を開催。当該年度の募金目標額及び募金活動の議事について審議、決定した。理事は、地区自治会長会代表 12 人、民生委員・児童委員協議会会長 1 人、商工会 1 人、シニアクラブ連合会会長 1 人、市執行部（健康福祉部長）1 人、識見を有する者 1 人（社会福祉協議会会長）により構成されている。

■福岡県共同募金会宗像市支会

「福岡県共同募金会宗像市支会」（事務局：社会福祉協議会）として、募金活動を行った。

■募金方法と募金実績額

毎年 10 月 1 日～12 月 31 日までの間で募金活動を実施。

年度実績		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
項目	■戸別募金	10,608,827 円	10,271,404 円	10,153,114 円
	■街頭募金	148,478 円	126,406 円	147,725 円
	■学校募金	98,785 円	138,958 円	151,118 円
	■職域募金及び資材を活用した募金	703,943 円	694,095 円	646,170 円
	■イベント募金	86,695 円	104,595 円	111,599 円
	■個人募金、その他	131,297 円	160,631 円	381,094 円
	実績額合計	11,778,025 円	11,496,089 円	11,590,820 円

■配分実績

募金実績額に対する福岡県共同募金会からの宗像市支会への令和元年度の配分先と配分金額。

	配分先	配分金額
■地域配分（B 枠） 福岡県共同募金会から宗像市社会福祉協議会に対し、申請に基づいて配分される。本会の理事会・評議員会で承認された地域福祉活動を行うための事業費。	高齢者福祉に	902,000 円
	児童・青少年福祉に	804,000 円
	障がい児・者福祉に	2,123,000 円
	子育て支援活動に	545,000 円
	ボランティア活動に	534,000 円
	福祉社会活動の支援に	2,936,000 円
	情報提供・啓発活動に	469,000 円

(2) 歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分

※7 低所得者福祉事業の推進（2）歳末たすけあい募金の実施及び募金の配分を参照。

13 障害者生活支援センター運営事業

■宗像市委託事業

(1) 障害者生活支援センター事業

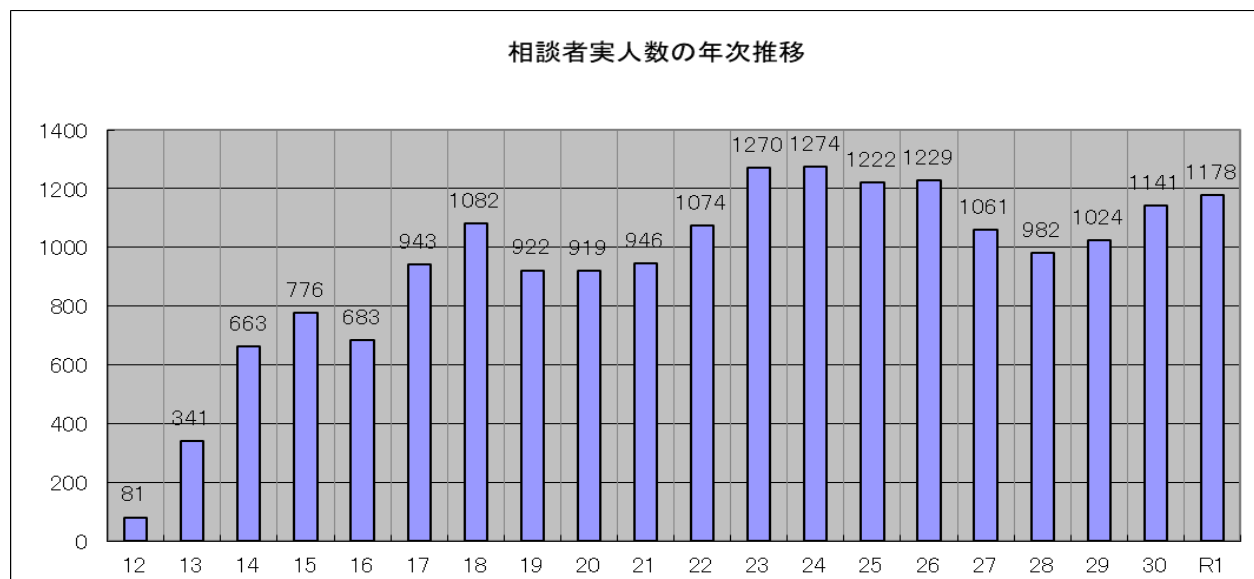
■事業説明：基幹相談支援センターとして、市における相談支援の中核的な役割を担うとともに、宗像市に居住する障がいのある人に対し、障がい福祉サービスの利用促進、及び各種情報の提供、相談・助言等を総合的に行うことにより、障がいのある人及びその家族の地域における生活を支援し、障がいのある人の自立と社会参加の促進を図ることが目的。

■事業内容：○基幹相談支援センターの充実
 ○自立支援協議会の充実
 ○地域の相談支援体制の強化
 ○地域移行・地域定着支援の推進
 ○障害者虐待防止センターの充実
 ○成年後見制度の利用促進

- 障害者団体の組織化と自立支援
- ピアサポート機能の充実・強化
- 登録手話通訳者等派遣事業の充実
- 障害者差別解消法の啓発に関する取り組み

■職員体制：○センター長 1人
○相談員 3人
○ピアカウンセラー 5人

■開所日時：①月・火・水・木・金曜日（8時30分～17時）
※土・日曜日・国民の祝日・年末年始は定休日
②ピアカウンセリング（10時～15時）
※水・金曜日



※センター利用状況・相談件数：1,178人

■相談実績件数①（区分別）

（単位：件）

項目		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1	訪問系サービスの利用に関する事	327	264	306
2	通所系サービスの利用に関する事	354	501	387
3	GH・入所系サービスの利用に関する事	341	382	248
4	移動や外出に関する事	108	77	91
5	就労に関する事	400	473	431
6	日常生活用具・補装具に関する事	71	35	36
7	地域移行支援・地域定着支援に関する事	6	2	6
8	児童発達支援・放課後等デイサービスの利用に関する事	111	161	202
9	計画相談支援に関する事	713	626	810
10	手話・代筆・点字等のコミュニケーションに関する事	42	160	100
11	医療的なケアが必要な支援に関する事	222	183	96
12	社会保障制度等に関する事	203	155	171
13	介護保険制度等に関する事	98	76	110
14	権利擁護・成年後見制度等に関する事	225	154	57
15	虐待に関する事	76	108	71

16	虐待予防等の支援に関すること	75	40	30
17	障害者差別に関すること	18	4	4
18	家族関係・対人関係に関すること	629	640	550
19	障がいや病状の理解に関すること	83	29	29
20	健康・医療に関すること	781	751	793
21	保育・教育に関すること	280	232	253
22	家計・経済的な生活困窮に関すること	273	123	91
23	金銭管理に関すること	215	221	199
24	社会参加・余暇活動に関すること	75	62	33
25	住まいに関すること	219	181	90
26	障害者団体・ボランティア・NPO 等に関すること	4	19	9
27	ピアカウンセリングに関すること	20	25	15
28	専門機関等の紹介に関すること	105	84	88
29	生活・福祉等の情報提供に関すること	457	373	288
30	その他必要な生活支援に関すること	1,085	973	852
計		7,616	7,114	6,446

■相談実績件数②（相談方法別）

（単位：件）

項目／月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①来 所	1,556	1,693	1,683
②電 話	2,849	2,489	2,108
③文書（メール等）	77	69	133
④訪 問	867	571	511
⑤同 行	220	310	177
⑥担当者会議	482	468	508
⑦個別支援会議	314	284	259
⑧関係機関	1,251	1,230	1,067
計	7,616	7,114	6,446

■障がい種別件数①（障がい者）

（単位：人）

項目／月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①肢体不自由	572	415	551
②聴覚障がい	86	90	223
③言語障がい	5	1	0
④視覚障がい	157	98	173
⑤内部障がい	50	39	32
⑥発達障がい	368	470	351
⑦高次脳機能障がい	61	10	83
⑧知的障がい	1,423	1,771	888
⑨精神障がい	3,216	2,951	2,682
⑩難病	198	41	21
⑪重複障がい	268	143	241
⑫不 明	258	209	204
⑬な し	119	95	71
計	6,781	6,333	5,520

■障がい種別件数②（障がい児）

（単位：人）

項目／月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①肢体不自由	103	62	37
②聴覚障がい	0	0	6
③言語障がい	4	2	0
④視覚障がい	0	0	0
⑤内部障がい	4	0	4
⑥発達障がい	327	382	487
⑦高次脳機能障がい	0	1	0
⑧知的障がい	225	142	174
⑨精神障がい	11	46	12
⑩難病	10	10	0
⑪重複障がい	96	35	33
⑫不 明	41	91	168
⑬な し	14	10	5
計	835	781	926

（２）障害者生活支援センター主催事業

①ピアサポート事業

■事業説明：障がいのある人とその家族のための総合相談窓口。ピアサポーターと利用者が事業を通じた交流により、身近な相談相手として当事者間のネットワークを構築することを目的とするピアサポート事業を実施。

※「ピアサポーター」とは、障がいのある人やその家族と同じ立場に立って悩みを一緒に考え、解決への手助けをする人をいう。

■参加費：無料（実費負担あり）

■実施内容

実施日	内容	参加人数	場所
6月16日	『夏の暑さを吹き飛ばそう！オリジナルうちわ作り』	11人	メイトム宗像
9月29日	『チャレンジ！ボッチャ！』	14人	東郷地区 コミュニティ・センター
2月2日	『歌って♪踊って♪盛り上がろう！！カラオケ大会』	8人	サウンドパーク 宗像王丸店

②ピアサポーターだより「すまいる」発行事業

■事業説明：ピアサポーターの活動や障がい福祉サービス、市内の社会資源、ボランティア等の情報を当事者や市民、関係機関等に周知し、情報を共有することを目的に広報紙を発行。

■発行回数：年3回

■発行部数：710部／回

■配布先：各障がい者施設、当事者団体、関係機関等

■実施内容：事業紹介、社会資源の情報、生活情報など

③パソコン勉強会

■事業説明：当センターのピアサポーターが講師となり、在宅障がい者などを対象にパソコンの勉強会を実施。

■開催日時：第2・4火曜日（13:00～15:00）

■開催場所：宗像市役所内

■参加費：無料

■延べ参加者数：33人

(3) 障害者生活支援センターのその他の関連事業

■会議や研修への参加・協力

会議・研修名	実施時期
障害者自立支援協議会(全体会)	5月24日
生活部会	4月17日、6月20日、9月6日、11月28日、2月17日
就労部会(部会事業、研修会への参加、協力)	6月24日、7月19日、9月10日、11月15日・28日、12月3日、2月8日
権利擁護部会	1月24日
相談支援ネットワーク会議	4月16日、10月3日、11月28日
事務局会議	12回実施
地域生活支援拠点に関する説明会及び意見交換会	2月7日、3月17日
民生委員・児童委員協議会(日の里地区)	5月29日
福岡県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	6月8日、6月9日、7月6日、7月7日
福岡県障害支援区分認定調査員研修	6月28日
福岡県集団指導	7月1日
あゆみの会主催 障がい福祉講演会	7月6日
福岡県知的障がい者相談員研修会	7月13日、2月12日
女性問題にかかわる相談員研修会	7月25日
精神障がい者地域支援企画検討会議	7月25日
精神保健福祉夏期講座「子どものこころの危機を支援する」	7月31日、8月1日
地域自立支援協議会担当者会議	8月5日、2月21日
アディクション関連問題「ギャンブル依存症を学ぶ」	1月30日
家事関係機関との連携会議	1月30日
高齢者虐待防止・権利擁護研修	8月22日
福岡県身体障害者相談員研修会	9月20日
福岡県障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	10月24日、11月7日
宗像・遠賀地域精神障がい者地域支援実務者会議	10月31日、2月7日
相談支援従事者現任研修	11月6日、11月16日、11月20日
地域における成年後見制度	11月23日
宗像市こころの健康づくり講演会 「こころの危機を理解し、支える人に ゲートキーパーになりませんか？」	1月28日
宗像市障害者虐待防止研修会	12月2日
心の健康づくり講演会「大人の発達障がいについて」	12月6日
障害者虐待防止に関する学習会	12月17日、12月20日
宗像・遠賀地域在宅医療推進協議会	1月16日
むなかた向上力研修	1月16日、1月23日
ネットワークふくおか研修会	2月21日

(4) 宗像市登録手話通訳者等派遣事業

■事業説明：聴覚、言語機能または音声機能の障がいのため、他者との意思疎通を図ることに支障がある障がいのある人に対し、市が登録した手話通訳者または要約筆記者を派遣し、意思疎通の円滑化を図ることを目的に事業を実施。

■派遣申請者数 (単位:人)

派遣申請者数	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	31	31	29

■内容（件数）

（単位：件）

項目／月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①手続・相談	5	1	0
②医療・保健	47	2	15
③就職活動	1	47	54
④教育	0	0	1
⑤その他	2	1	0
計	55	51	70

■区分（件数）

（単位：件）

項目／月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①手話通訳等	34	41	59
②要約筆記等	21	10	11
計	55	51	70

（５）宗像市障害者虐待防止センター事業

①宗像市障害者虐待防止センター事業の実績

■事業説明：「障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」により、平成 24 年度から宗像市の委託事業として実施。障がいのある人への虐待の早期発見と発生防止、障がいのある人への虐待が起きないように個々のケース対応を充実するとともに、市民や障がい福祉サービス事業者への周知が主な役割。

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①通報受理	6 件	6 件	3 件
②事実確認実施	8 件	10 件	5 件
③虐待と判断	2 件	2 件	0 件
④相談・指導・助言	20 件	20 件	2 件
⑤実人数	6 人	6 人	3 人

②家庭訪問等個別支援事業

■障がいのある人への虐待を未然に防止するため、過去に虐待事件があった障がい者の家庭等を訪問し、家族関係の修復及び不安の解消に向けた支援を行う。

■家庭訪問件数：0 件

■人数：0 人

③宗像市障害者虐待防止研修会の実施

■事業説明：障がいのある人への虐待の防止と早期発見、適切な支援につなげるため、市内の障がい福祉事業所を対象に、障がい者虐待防止及び権利擁護への理解を深める研修を実施した。

■実施日：令和元年 12 月 2 日

■場 所：宗像市役所内 103 会議室

■参加者：市内の障がい福祉事業所職員等 51 人

■内 容：「障がい者への虐待防止体制づくり～予防と対処法～」

■講 師：NPO 法人権利擁護支援センターふくおかネット 理事長 森高 清一 氏

14 大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業

■宗像市指定管理運営事業

（１）大島福祉センター「ふれ愛センター」運営事業（指定管理業務）

■事業説明：大島福祉センター「ふれ愛センター」の指定管理を受け、社会福祉協議会が施設を管理・運営している。

■運営体制：●館長（兼任）1 人 ●事務員 1 人

■大島福祉センター「ふれ愛センター」年間利用者集計表

	高齢者	一般	中学生以下	島外	計	対前年比較
令和元年度	1,773 人	388 人	223 人	127 人	2,511 人	-261 人
平成30年度	2,202 人	282 人	109 人	179 人	2,772 人	71 人
平成29年度	2,284 人	243 人	25 人	149 人	2,701 人	

■利用施設別延べ利用者数

	1階ホール	1階会議室	2階会議室	いこいの部屋	調理実習室	計	対前年比較
令和元年度	2,255 人	2,001 人	7 人	40 人	30 人	4,333 人	-398 人

※2019 年 4 月 1 日から、1 階の施設を再区分。

	1階大広間	2階会議室	いこいの部屋	調理実習室	計	対前年比較
平成30年度	2,721 人	33 人	34 人	1,943 人	4,731 人	-1 人
平成29年度	2,657 人	39 人	33 人	2,003 人	4,732 人	

■施設利用料金実績及び施設稼働日数

	稼働日数 (日)	1階ホール (円)	1階会議室 (円)	2階会議室 (円)	調理実習室 (円)	計 (円)	対前年比較 (円)
令和元年度	250	7,250	6,040	0	3,810	17,100	5,100

※2019 年 4 月 1 日から、1 階の施設を再区分。

	稼働日数(日)	1階大広間(円)	2階会議室(円)	調理実習室(円)	計	対前年比較
平成30年度	254 日	9,980 円	0 円	2,020 円	12,000 円	5,260 円
平成29年度	253 日	5,460 円	0 円	1,280 円	6,740 円	

(2) いきがい活動通所事業(大島ミニデイサービス：指定管理業務)

■事業説明：虚弱高齢者及び単身高齢者などを対象に、生きがいづくりと心身機能の維持向上を図るため、食事・入浴・レクリエーション等の活動を行う。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用者数	271 人	266 人	259 人
	対前年比較	-5 人	-7 人

(3) 配食サービス(委託業務)

■事業説明：「食」に課題のある高齢者等を対象に、栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、見守りを行う。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用者数	112 人	141 人	100 人
	対前年比較	29 人	-41 人

(4) 大島福祉センター「ふれ愛センター」健康・福祉ミニまつりの開催(自主事業)

■事業説明：島民を対象に、健康増進イベント(健康講座・身体機能測定など)を開催。
元年度は、事業実施に伴う人員確保等が整わず中止。

※(前々年度実績)

■実施日：平成 30 年 7 月 21 日(土)

■内 容：○健康ミニ講座：大島診療所 辻 隆宏 医師

内容「ケガ治療の最前線 2018 ～そのやり方で本当に大丈夫?～」

○血管年齢測定、骨密度測定、脳年齢測定、アロマオイルハンドマッサージほか

■参加者：68 人

15 介護保険事業の適切な運営

(1) 訪問介護事業

■事業説明：福岡県指定の訪問介護事業所として、訪問介護計画に基づく訪問介護サービスの提供を行う。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
延べ利用者数	1,116 人	998 人	827 人
	対前年比較	-118 人	-171 人

(単位：人)

要介護度別 延べ利用者数	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	対 前 年 比 較
令和元年度	268	174	15	30	27	514	-54
平成 30 年度	345	130	24	39	30	568	-8
平成 29 年度	324	151	56	31	14	576	

要介護に占める 要介護 1・2 の割合	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	82.5%	83.6%	86.0%

(2) 従前相当訪問サービス・訪問型サービス A 居宅介護支援事業

■事業説明：宗像市指定の介護予防・日常生活支援総合事業第 1 号訪問事業所として、訪問介護サービスを行う。

利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
要支援 1	178 人	188 人	98 人
要支援 2	278 人	124 人	131 人
サービス A	84 人	118 人	84 人
計	540 人	430 人	313 人
	対前年比較	-110 人	-117 人

(3) 居宅介護支援事業

■事業説明：介護保険利用者の立場に立ち、居宅介護支援サービスの作成・管理・更新等を行い、個々の利用者に最適な介護サービスの提供を行う。

(介護予防支援事業含む。単位：人)

要介護度別 延べ利用者数	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	対 前 年 比 較
令和元年度	9	30	572	565	371	169	114	1,830	-467
平成 30 年度	41	102	872	616	355	191	120	2,297	-86
平成 29 年度	107	171	890	608	282	180	145	2,383	

【介護給付】 延べ利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	2,105 人	2,154 人	1,791 人
	対前年比較	49 人 (102.3%)	-363 人 (83.1%)

【予防給付】 延べ利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	278 人	143 人	39 人
	対前年比較	-135 人 (51.4%)	-104 人 (27.3%)

(4) その他の事業

ホームヘルパーステーション

①ホームヘルパー全員研修

■事業所加算Ⅱ取得の必須要件として本所は毎月1回程度（大島支所は必要に応じて）、管理者から非常勤臨時ホームヘルパーまで全職員を対象に実務研修を実施した。

②経営改善計画の策定と実践

3年を期間として経営の改正を行う行動計画を作成し、具体的に検討・実践した。

③法令遵守に関する取り組み

■障害者総合支援法の規定による指定障害福祉サービス事業所の指定更新（居宅介護・重度訪問介護・同行援護指定更新申請）

■介護保険法及び障害者総合支援法の規定による変更届（会長の異動にともなう変更届）

※介護予防・日常生活支援総合事業現行相当みなし指定事業所含む

居宅介護支援センター

①居宅介護支援係会議及び係内研修

■定期の係会議と事業所加算取得のための必須要件として、ケアプランを担当する職員と訪問調査を担当する職員を対象にあらかじめ福岡県から指定されたテーマを含む職員研修を実施した。

②情報伝達会議

■事業所加算取得のための必須要件として毎月1回程度、ケアプランを担当する全職員を対象に福岡県から指定されたテーマについてケース会議・研修を実施した。

③法令遵守に関する取り組み

■指定居宅介護支援事業所の指定更新（居宅介護支援事業指定更新申請→宗像市）

■指定居宅介護支援事業所の指定更新に関する実地指導と現地確認（→宗像市）

■介護保険法の規定による指定居宅介護支援事業の変更届（役員・職員の異動等に伴う変更届）

16 指定障害サービス事業の適切な運営

(1) 居宅介護事業・同行援護事業

■事業説明：障がいのある人の介護、家事の支援や視覚障がい者の外出支援を行う。

利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	143 人	143 人	133 人
	対前年比較	0 人	-10 人

17 市受託事業の適切な運営

(1) 地域生活支援事業（移動支援）

■事業説明：障がいのある人の外出支援を行う。

利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	37 人	37 人	40 人
	対前年比較	0 人	3 人

(2) いきがい活動通所事業（大島ミニデイサービス）【再掲】

■事業説明：虚弱高齢者及び単身高齢者などに、生きがいづくりと心身機能の維持向上を図るために、食事・入浴・レクリエーション等の活動を行う。

利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	271 人	266 人	259 人
	対前年比較	-5 人	-7 人

(3) 要介護認定調査業務

■事業説明：市からの委託を受けて、要介護認定調査を行う。

要介護認定 調査件数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	1,377 件	1,398 件	1,367 件
	対前年比較	21 件	－31 件

18 スマイルハート事業

(1) スマイルハート事業

■事業説明：介護保険適応外の家事援助サービス及び身体介護サービスを提供し、在宅での自立支援を行う。

延べ利用者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
	236 人	242 人	255 人
	対前年比較	6 人	13 人

19 発達支援センター療育施設「のぞみ園」 運営事業

■宗像市委託事業

(1) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業

■事業説明：さまざまな障がいのある子ども達とその保護者に対して、通園による療育を行い支援していくことを目的として設置された施設。実施主体は宗像市で、社会福祉協議会が受託・運営している。

■事業内容：①個別と小集団の保育活動を中心とした総合的な療育と支援を行う。
②作業療法士による機能訓練及び感覚統合訓練、言語聴覚士によるコミュニケーション支援など利用者への直接的な支援と、子どもに関する保護者の悩みに対し、専門的なアドバイスをする間接的な相談支援を行う。
③水泳の指導を専門の指導員が週 1 回行う。(金曜日)
④嘱託医による定期的な健診とカンファレンスを通じて、保護者及びスタッフに対し、小児神経科医の専門的なアドバイスをを行う。

■運営体制：①園長（兼任） 1 人
②児童発達支援管理責任者 1 人
③相談支援専門員 2 人
④専任指導員 2 人
⑤作業療法士 1 人
⑥言語聴覚士 1 人
⑦プール指導員 1 人
⑧臨時指導員 11 人
⑨託児スタッフ 5 人
⑩嘱託医 1 人

(2) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」運営事業実績

①年齢別・男女別・障がい別・園児状況（令和元年3月末 登録者統計）

年齢	男子	女子	障がい区分								累計
			発達障害		知的障がい	未診断	視覚障がい	聴覚障がい	重複障がい	その他	
			ASD								
			知的有	知的無							
1 歳										0 人	
2 歳	2	1				3				3 人	
3 歳	10	3	2	1		10				13 人	
4 歳	32	6	5	2		31				38 人	
5 歳	41	8	6	8		34			1	49 人	
6 歳	60	9	17	12		39			1	69 人	
計	145	27	30	23		117			2	172 人	

②月別療育日数、実績人数

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
療育日数	20	19	20	22	18	19	21	20	20	19	18	19	235日
実績延人数	151	264	276	296	179	225	197	338	280	343	204	246	2,999人
今年度一日平均利用人数	7.6	13.9	13.8	13.5	9.9	11.8	9.4	16.9	14.0	18.1	11.3	12.9	12.8人
前年度一日平均利用人数	1.5	15.1	13.5	16.0	12.5	17.1	14.5	18.3	15.3	18.2	17.3	12.9	14.4人

③園児数の推移

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入園者数	8	8	5	5	3	17	8	5	3	12	0	0	74人
退園者数	0	0	0	7	0	3	1	1	2	0	2	0	16人
今年度登録人数	122	130	135	140	136	153	158	162	164	174	174	172	
前年度登録人数	122	130	139	143	149	151	158	162	167	174	182	182	
延べ登録人数	122	130	135	140	143	160	168	173	176	188	188	188	

④兄弟児託児状況

■事業説明：保護者が子どもとしっかり向き合えるよう、療育、勉強会、保護者会などに参加する時間帯に兄弟児の託児を行っている。託児の利用料は、一回につき500円を徴収。今年度から託児キャンセルの連絡遅延等を防ぐため、託児キャンセル料（一回につき300円）を徴収することで、連絡の無いキャンセル予防につながった。

■運営体制：登録18人

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度託児延べ利用人数	9	13	11	49	27	24	18	28	36	46	31	33	325人
前年度託児延べ利用人数	15	29	16	29	38	23	16	30	21	38	17	13	285人

⑤送迎利用状況

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度送迎延べ利用回数	8	12	18	19	13	27	22	41	37	57	27	31	312回
前年度送迎延べ利用回数	2	32	17	27	17	23	25	31	21	26	20	17	258回

(3) 発達支援センター療育施設「のぞみ園」訓練等の状況

①言語聴覚士の関わり（週5回。1人体制。個別療育・個人懇談・関係機関との連携等）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度個別療育	70	82	59	89	68	85	49	70	75	80	59	67	853人
前年度個別療育	13	70	52	75	101	69	63	85	75	85	60	85	833人
今年度集団 (ことば遊び)	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	5回

※6月、10月、2月の個人懇談は人数に含まない。集団は、集団プログラムにて指導を行った回数。

②作業療法士の関わり（週1回程度。個別療育・個人懇談・関係機関との連携等）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度個別療育	0	14	17	22	19	18	22	14	17	23	16	23	205人
前年度個別療育	0	14	13	15	15	11	19	18	13	12	10	6	146人

※6月、10月、2月の個人懇談は人数に含まない。作業療法士は、個別指導のみ実施。

③保育の個別

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
今年度個別 保育実績	33	20	26	26	25	18	25	28	29	46	28	35	339人
前年度個別 保育実績	8	43	39	65	46	53	44	56	54	56	52	66	582人

④嘱託医の健診・ケースカンファレンス（年5回実施）

実施時期	参加者数	主な活動内容
5月22日	5人	内 容：ケースカンファレンス
7月24日	4人	内 容：嘱託医健診
9月25日	3人	内 容：ケースカンファレンス
11月27日	4人	内 容：嘱託医健診
令和2年3月4日	3人	内 容：ケースカンファレンス

(4) ぱんだルームの状況

■事業説明：宗像市乳幼児健診後のフォロー事業として、専門的な支援が必要な幼児を対象に、遊びを通して子どもの発達と子育てを支援。月に1～2回程度開催。

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数	0	2	1	2	2	2	1	2	2	2	1	0	17回
延べ利用人数	0	14	6	10	7	14	9	11	15	18	8	0	112人

※兄弟児は前期7人、後期18人。

(5) その他の取り組み

①児童発達支援事業改正及び事業登録更新に伴うのぞみ園療育支援事業の見直し

■実施内容

- 防犯及び防災に関する研修会を実施し、防犯及び防災に関するのぞみ園内の整備を行なった。
- 9月に利用者の利用状況及び療育内容についての評価を実施し、クラス編成と職員配置等の見直しを行った。また昨年同様、園児数の推移と利用状況を検証し、発達支援室と療育事業の今後のあり方について検討した。
- 10月から自己評価公表のためのアンケートを実施し、アンケート集計及び結果をホームページに掲載した。

②保育所、幼稚園、小学校への訪問等による支援の取り組み

■実施内容

4月と5月を接続支援の重点期間に位置付け、入園、入学後の園生活及び学校生活が円滑に行えるように、各園及び学校との情報交換を行った。また、その他の期間においても、保護者からの訪問支援及び情報交換に関する要望、通っている園等の関係機関からの要望に応じて、随時、各保育所及び幼稚園への訪問と情報交換を行った。

③職員の資質向上に向けた研修会参加等の実施

■実施内容

- ・4月1日 スタッフ研修会『災害時の避難訓練について』（座学・実践）
- ・5月8日、21日 新任職員研修
- ・6月30日 りっぷる主催『感覚統合研修会』研修会参加
- ・9月7日 『遊びレシピ養成講座』研修会参加
- ・10月18日 スタッフ研修会『防犯訓練について』（座学・実践）
- ・11月2日、3日 『特別支援教育について』研修会参加
- ・12月14日 『個性を生かして豊かに生きる』研修会参加
- ・12月20日 スタッフ研修会『虐待防止について』（座学）
- ・1月11日、12日 『特別支援教育について』研修会参加
- ・毎月定例 『防犯対策委員会』の実施（職員会議後）

④保護者向け勉強会の実施

- ・5月14日 就学相談についての説明会
講師：教育政策課 2人
参加人数：21人
- ・7月10日 「ことばを育む関わり」
講師：言語聴覚士 松延孝代先生
参加人数：9人
- ・9月12日 「アロマとハーバリウム作り」
講師：藤野先生／岡住先生
参加人数：12人
- ・12月6日 「サポートブックづくり」
講師：各スタッフ（3人）
参加人数：23人
- ・1月16日 「絵カードを作ってみましょう～絵カードを使った分かりやすい関わり方～」
講師：言語聴覚士 松延孝代先生
参加人数：11人

事業報告書資料集

■社会福祉協議会及び宗像市社会福祉協議会の概況

1. 社会福祉協議会の位置付け

(1) 社会福祉協議会の位置づけ

社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条に「地域福祉の推進を目的とする民間の中心的な団体」として規定されている。また、社会福祉協議会の組織構成や事業等も社会福祉法に定められており、その活動は「民間性」と極めて高い「公共性」が特徴である。

(2) 宗像市社会福祉協議会の位置づけ

本会は、前記の法的位置づけ、ならびにその特徴と事業実績により、宗像市の総合計画や各種福祉計画には、福祉行政の一翼を担い、民間の福祉活動を推進する中心的な団体として位置づけられてきた歴史がある。

(3) 宗像市社会福祉協議会の活動方針

本会の活動方針は、平成 27 年 10 月に第 3 次計画の見直しと次代に適応する社会福祉協議会活動の基本理念や実施計画等を取りまとめた第 4 次地域福祉活動計画（計画年度：平成 27～36 年度。以下「第四次計画」という。）による。第四次計画には、本会の基本的な活動方針として以下の項目を掲げている。

- ①住民主体・住民参画による社会福祉協議会活動の推進
- ②住民自治活動としての地域福祉の推進
- ③社会的包摂にむけた生涯学習としての福祉教育の推進
- ④行政および地域福祉推進団体などの協働者としての社会福祉協議会の確立
- ⑤利用者本位の福祉サービス供給体制の強化
- ⑥法人経営体制の強化

2. 宗像市社会福祉協議会の経過

年 度	主な内容
昭和 34 年度	・任意団体として宗像町社会福祉協議会が発足
昭和 45 年度	・社会福祉法人として認可
～昭和 57 年度	・東部児童館事業受託 ・老人・心身障害児・身体障害者家庭奉仕員派遣事業受託 ・ボランティア育成事業開始
昭和 60 年度	・福祉ボランティア活動連絡協議会設立 ・宗像市社会福祉協議会基盤強化計画書策定
昭和 61 年度	・福祉教育推進指定校事業開始
昭和 62 年度	・小地域福祉会組織化事業開始（地区福祉懇談会開始） ・障害児通園事業「のぞみ園」受託
昭和 63 年度	・宗像ユリックス内に社会福祉センター完成・本会移転 ・愛のネットワーク活動、福祉の里づくり事業開始 ・自由ヶ丘地区社会福祉会発足 ・電話訪問相談事業開始（～平成 10 年度）
平成元年度	・やさしさ宅配人（愛のネットワーク活動協力員）登録事業開始
平成 8 年度	・第一次地域福祉活動計画書策定
平成 9 年度	・在宅介護者組織化事業開始
平成 10 年度	・総合保健福祉センター「メイトム宗像」完成・本会移転
平成 12 年度	・介護保険制度の実施にともない居宅介護支援事業・訪問介護事業開始 ・要介護認定調査業務・軽度生活援助事業受託 ・障害者生活支援事業受託
平成 13 年度	・ボランティアセンター事業受託 ・在宅介護者の会ひまわり発足、在宅介護者組織化事業から支援事業へ

平成 14 年度	・宗像市・玄海町社会福祉協議会合併合同委員会設置 ・（新）宗像市社会福祉協議会誕生（平成 15 年 3 月 31 日）
平成 15 年度	・玄海 4 地区に小地域福祉会の組織化
平成 16 年度	・宗像市・大島村社会福祉協議会合併合同委員会設置 ・（新）宗像市社会福祉協議会誕生（平成 17 年 3 月 31 日） ・第二次地域福祉活動計画書策定
平成 17 年度	・社会福祉協議会福祉教育推進計画書策定
平成 18 年度	・機能訓練 B 型（いきいきふれあいサロン）事業を介護予防いきいき交流会事業へ移行 ・障害者自立支援法による指定相談支援事業、障害福祉サービス事業、地域生活支援事業を開始
平成 20 年度	・「メイトム宗像」が市民活動交流館としてリニューアル ・「宗像市ボランティアセンター」が市民活動ボランティア NPO センターの一部となる ・「のぞみ園」が発達支援センター療育施設の一部となる
平成 21 年度	・地域福祉の推進に関する市民の意識調査を実施 ・非常・災害時職員行動計画書（平成 21 年度版）作成 ・第三次地域福祉活動計画策定委員会設置
平成 22 年度	・第三次地域福祉活動計画書策定 ・第二次経営改善計画策定 ・市窓口ワンストップサービス化に伴い、障害者生活支援センターが宗像市役所内に移転
平成 23 年度	・第二次福祉教育推進計画策定 ・東日本大震災救援・復興ボランティアとして職員を派遣
平成 24 年度	・市保健福祉会館（ゆうゆうぶらざ）の閉館に伴い本会玄海支所を廃止 ・障害者基幹型相談支援センター事業を受託 ・宗像市障害者虐待防止センター事業を受託 ・宗像市社協自動販売機設置開始
平成 25 年度	・ライフサポート事業開始 ・認知症サポーター養成講座事業を受託
平成 26 年度	・福津市・古賀市社会福祉協議会と災害時相互協力協定を締結 ・宗像青年会議所と災害時相互協力協定を締結
平成 27 年度	・第四次地域福祉活動計画書策定
平成 28 年度	・第三次福祉教育推進計画書策定
平成 29 年度	・認知症サポーター活動支援事業を受託（オレンジカフェの展開等）
平成 30 年度	・宗像市社会福祉法人連絡会を設立（事務局）
令和元年度	・宗像市生活支援体制整備事業（第 1 層・第 2 層 6 圏域）を受託

■用語の説明

【あ】

ICF

ICFは、2002（平成13）年にWHOが発表した国際生活機能分類である。ICFは、人間の生活機能と障がいについて「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の三つのレベルで構成される「生活機能」としてとらえる。この三つのレベルは、「生命」「生活」「人生」と言い換えることができる。「生活機能」の三つのレベルが相互に、また「健康状態（疾患等）」や「背景因子（環境因子と個人因子）」との間で、相互作用を行うことを重視するのがICFの生活機能モデルである。

いきいきふれあいサロン

当初福祉会が行っていた「ふれあい会食会」や「楽しく食べて語ろう会」などの【ふれあい活動】に、介護予防いきいき交流会事業（市委託事業）による在宅虚弱高齢者への介護予防活動や簡単な健康チェック、機能訓練などを行う【いきいき活動】が取り入れられた事業。高齢者のとじこもり防止の要素もある。活動内容は、口腔ケアや栄養指導、運動指導などの介護予防活動と簡単な健康チェック、学習会、機能訓練（レクリエーション）、交流事業などである。また、「いきいきふれあいサロン」に参加できない（参加しない）高齢者への対応として、小地域ネットワーク活動との連携強化をすすめている。

【か】

限界集落

山間地や離島において過疎化などで人口の50%が65歳以上の高齢者になり、自治会活動や冠婚葬祭など地域的共同生活（活動）の維持が困難になった集落のこと。

声の広報活動

視覚に障がいがある人々へ、宗像市の広報紙などをCD-Rやカセットテープに録音して情報を届ける本会の障がい者福祉活動。現在「日の里テープの会」「日の里いずみの会」「森林都市うぐいす」の3団体にこの活動を委託している。

【さ】

社会的包摂

ソーシャルインクルージョン（social inclusion）は、「社会的排除」の問題を解決する社会政策の理念として語られる「社会的包摂」と同意語である。「排除と包摂」という概念は、古くから用いられてきたが、これらが社会政策の重要な概念として登場するのは20世紀後期のヨーロッパにおいてである。特にフランスでは、1970年代以降、社会的不適応者（薬物依存者や非行少年など）や若年長期失業者、移民労働者など、既存の福祉国家の枠組みでは対応することが困難な人々の抱える問題が「新たな貧困」や「社会的排除」などの社会問題として認識されるようになり、このような人々を社会復帰させることが、社会政策上重要だと考えられるようになった。

社会福祉法第四条

地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

小地域ネットワーク活動

主に民生委員と福祉会の地域ケア型ボランティア（名称は福祉委員や福祉員など様々）が協力して、単身高齢者・高齢者夫婦のみ世帯などの定期的な見守り・訪問活動、情報提供活動、できる範囲での生活援助活動などを行っている。小地域ネットワーク活動は、昭和63年に民生委員協議会創設記念事業「愛のネットワーク活動」として福岡県では開始されたが、現在では、

福祉会などの日常的な「生活支援活動」として取り組まれている。

スマイルハート

宗像市社会福祉協議会独自の家事援助・軽介護サービス。障がい者や高齢者世帯等を対象に日常生活に必要な家事援助・軽介護サービスをホームヘルパーが提供し、在宅で自立した生活ができるように支援する有償サービス。

生活困窮者世帯

厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」の報告書では、「生活保護に至る前の段階」「生活保護受給者」といった「経済的困窮者」が主な支援対象者として想定されているが、「地域から孤立している者」「複合的な課題を抱えている者」への対策の必要性も掲げられている。つまり、この報告書における生活困窮者とは、「経済的困窮」「孤立」「複合的課題」などの生活・地域問題を抱える人々のことで、具体的には「生活保護に至る前の段階」「生活保護受給者」といった「経済的困窮者」や「ひきこもりの人」や「ゴミ屋敷生活している人」、「ホームレス」「生活困難を抱える精神・知的・発達障がいがある人」などと考えられる。

生活福祉資金貸付制度

低所得者（離職者）または障がい者、高齢者を対象に、小口の資金貸し付けと必要な援助・指導を行うことにより、その経済的自立および生活意欲の助長促進、ならびに在宅福祉・社会参加の促進を図り、安定した生活を営めるようにすることを目的とした制度。実施主体は、福岡県社会福祉協議会。

ソーシャルインクルージョン (social inclusion)

※「社会的包摂」参照

【た】

地域包括ケアシステム

「地域包括ケアシステム」とは、介護が必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のこと。

【な】

ノーマライゼーション

一般的には「共生社会」と訳されることが多い。どのような障がい者や高齢者、児童であつても人格を尊重され、人として同じ権利を享受し、地域社会（在宅）で主体的な生活と社会参加が保障されるのが正常（ノーマル）な社会であるという思想に基づき、地域の人々の正常な生活を実現していく取り組みを意味する。今日的には地域福祉や共生の基本的思想である。

【は】

ファンドレイジング

ファンドレイジング (Fundraising) とは、民間非営利団体 (NPO) が、活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為の総称。主に民間非営利組織の資金集めについて使われる用語。社協では「自主財源の確保」に関連する事業に使われる。

福祉会

生活課題、福祉問題を抱える要援護者が生活する小地域を活動範囲とし、要援護者の福祉問題をその人だけの問題とせず、地域住民みんなの問題として捉え、その解決策を考えたり予防したりするために、地域住民が組織的に福祉活動を推進する住民の自主的な組織。現在一般には「福祉会」と呼ばれ、市内 13 コミュニティを活動範囲とする福祉会を「地区福祉会」、行政区を活動範囲とする福祉会を「小地域福祉会」という。